

地域住民を対象とした風水害の受止め等
に関するアンケート調査

報告書

地域住民を対象とした風水害の受止め等 に関するアンケート調査

調査報告書 目次

I. 調査概要

1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
3. 集計・分析の記述について	3

II. 調査結果

1. 回答者の居住町丁目	7
2. 年齢	7
3. 居住年数	8
4. 避難困難な同居家族（回答者本人も含む）の有無	9
5. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時過ごしていた場所	10
6. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時過ごしていた建物	11
7. 台風15号による被害	12
8. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時の避難行動の有無	13
9. 避難行動の種別	14
10. 避難行動をとることを判断した決め手	15
(1) 避難行動をとることを判断した決め手	15
(2) 避難行動をとる判断に最も影響があったもの	17
11. 避難時の不安や困りごと	18
(1) 想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑った	18
(2) どの情報を決め手にして避難を開始すればいいのか迷った	19
(3) 避難先や避難ルートを調べるのが困難だった	20
(4) 大雨の中、屋外を移動するのが不安だった	21
(5) 暗い中、屋外を移動するのが不安だった	22
(6) 小さな子供や高齢者など手助けを必要とする人を連れて移動することが不安だった／困難だった	23
12. 避難行動をとらなかった理由	24
(1) 避難行動をとらなかった理由	24
(2) 避難行動をとらない判断に最も影響があったもの	26
13. 台風第15号より前の大雨災害での被災経験	27
14. 大雨災害への備え	28

(1) 大雨災害に備えた地域の防災訓練に参加したこと	28
(2) 大雨災害に関する防災講座に参加したこと	29
(3) 気象庁ホームページで防災気象情報を確認したこと	30
(4) 現在お住まいの地域の洪水に関するハザードマップを確認したこと	31
(5) マイ・タイムラインを作成したこと	32
(6) 大雨災害時の避難場所や避難ルートについて確認したこと	33
15. 大雨災害から命や財産を守るために身につけたい知識	34
(1) 自分の住んでいる地域で、災害発生の危険性が高い箇所を事前におきたい	34
(2) 自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が発生したのか 知っておきたい	35
(3) 大雨警報や土砂災害警戒情報など、気象庁が発表する防災気象情報の 意味を知っておきたい	36
(4) 大雨災害がどのようなメカニズムで発生・進行していくのか知識を身につけたい	37
(5) 災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認する 方法を知っておきたい	38
16. 大雨災害への備えとして気象庁や自治体に期待する取り組み	39
(1) 大雨災害を想定した避難訓練を開催してほしい	39
(2) 気象や防災について専門的な知識を持った人が講師を務める講座などを 開催してほしい	40
(3) 災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで 確認できるツールがほしい	41
(4) 気象や防災について自主的に学習できるコンテンツを充実させてほしい	42

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 令和4年台風第15号による被害状況	45
2. 避難状況	45
3. 避難行動をとった理由、とらなかった理由	45
4. 避難時の不安や困りごと	46
5. 大雨災害から命や財産を守るために今後身につけたい知識	47
6. 今後の大雨災害に備え、気象庁や自治体に期待する取り組み	48

Ⅳ. 巻末資料

自由回答	49
調査票	52

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査目的

近年、風水害を経験した地域の住民を対象にアンケート調査を行い、住民の災害に対する受止め並びに气象台及び地方公共団体に対するニーズ等を把握し、今後の気象庁による地域防災支援業務の改善に還元することを目的とする。

本調査では、近年発生した風水害として、静岡県を中心に浸水や土砂による甚大な被害をもたらした令和4年台風第15号を取り扱う。

2. 調査概要

1) 調査対象

令和4年台風第15号で浸水の被害が大きかった区域の一つである静岡県静岡市清水区にお住まいの高校生以上の方（世帯の代表者）

2) 実施期間

令和5年8月9日（水）～令和5年8月31日（木）

3) 調査方法

日本郵便株式会社による「配達地域指定郵便」サービスにより、指定地域内の全戸に調査票を配布し、回答者に返送していただき、調査票を回収した。

4) 有効回収数

配付：3,796／有効回収数：1,303（回収率：34.3%）

町丁目	配布件数	回収数
追分1丁目	305 件	108 件
追分2丁目	384 件	132 件
追分3丁目	202 件	76 件
追分4丁目	406 件	140 件
清水区渋川	300 件	118 件
渋川1丁目	206 件	67 件
渋川2丁目	225 件	79 件
渋川3丁目	198 件	65 件
鶴舞町	239 件	91 件
西大曲町	274 件	87 件
東大曲町	180 件	60 件
北脇新田	877 件	280 件
合計	3,796 件	1,303 件

3. 集計・分析の記述について

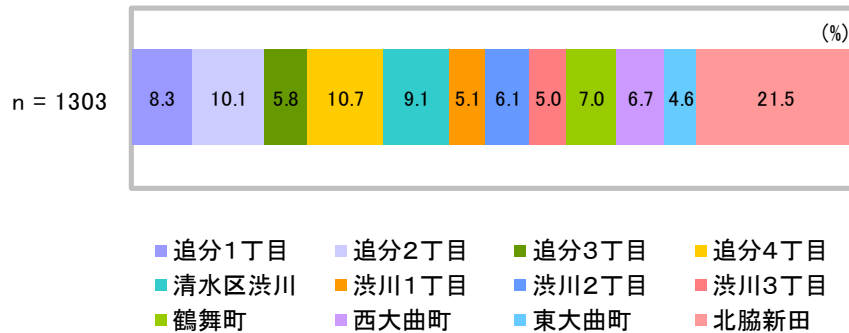
- 図表中のnは回答者の数（母数）であり、回答比率（%）算出の基数を表している。
- 回答比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100%にならないことがある。
- 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100%を超える。
- 各問の無回答には言及していないため、文中に出てくる比率の合計が100%にならないことがある。
- 調査数（n値）が少数（29以下）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、参考値として文章中の分析では言及していない。

II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の居住町丁目

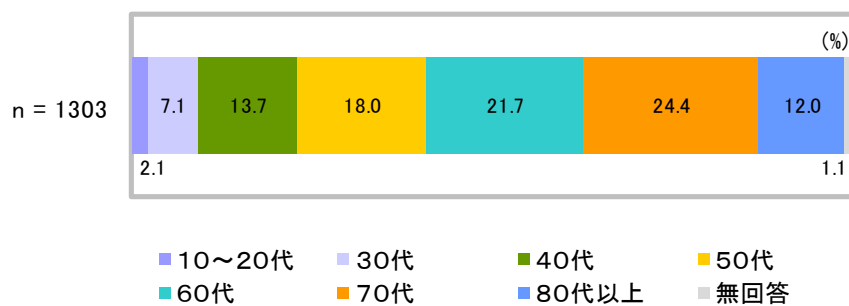
居住町丁目



回答者の居住町丁目は以上のとおりである。

2. 年齢

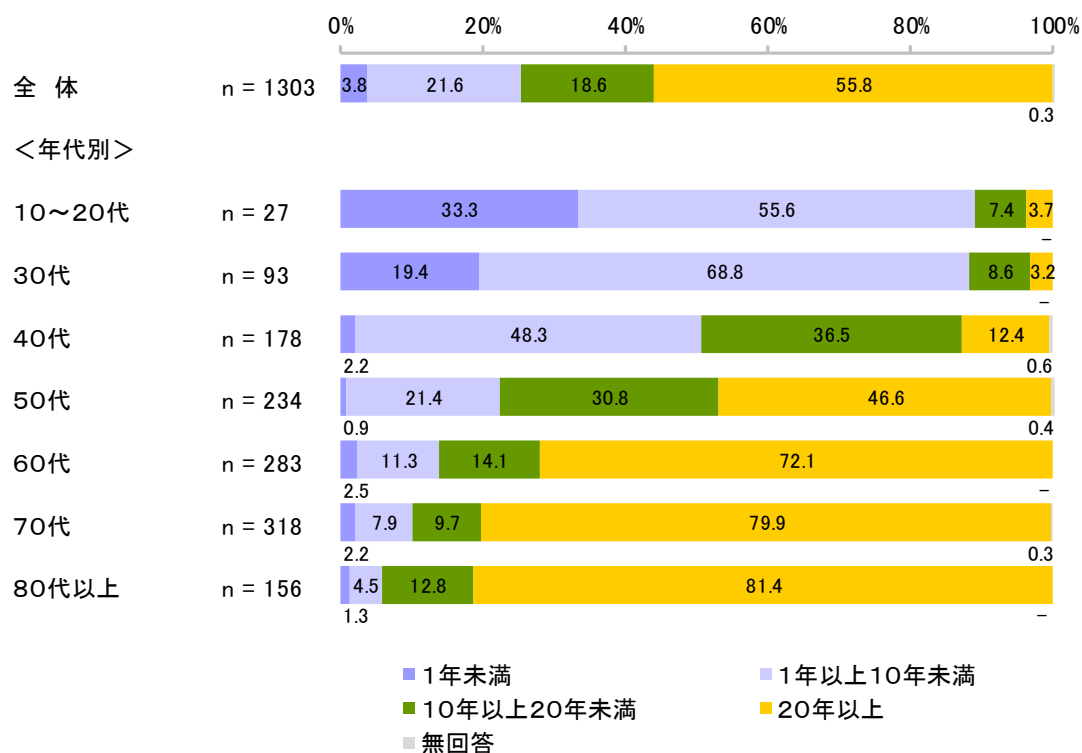
問1 令和5年8月1日現在、あなたはおいくつ（満年齢）ですか。年齢を算用数字でお書きください。



回答者の年代は以上のとおりである。

3. 居住年数

問2 令和5年8月1日現在、このアンケートが届いた場所（自宅や事務所）でどれぐらいの期間生活していますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

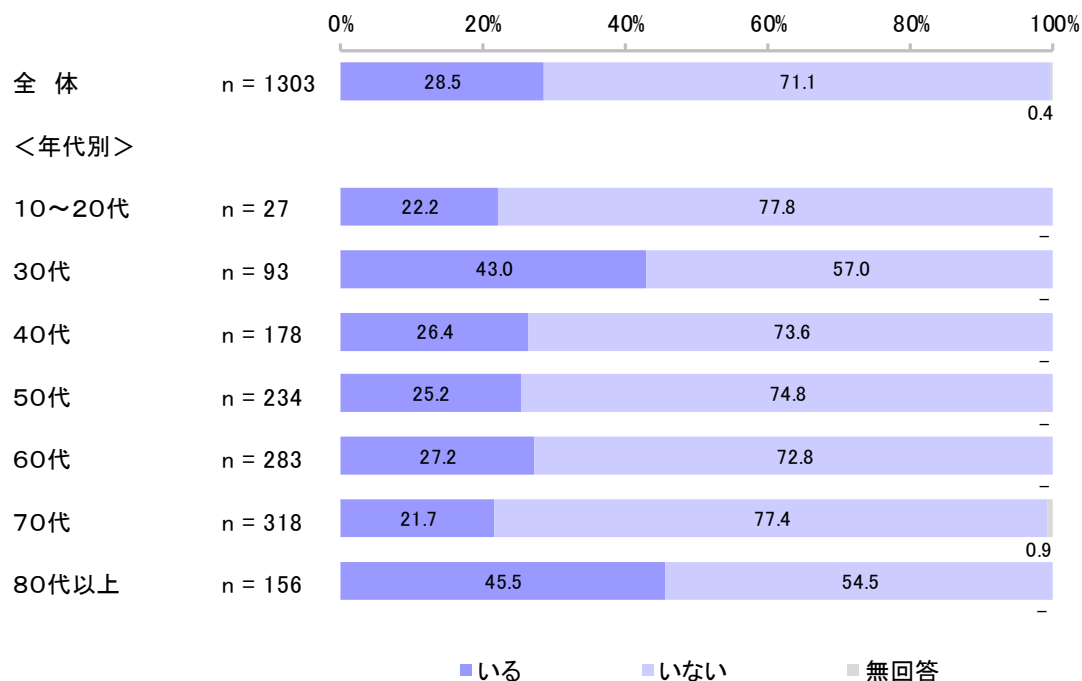


居住年数については、「20年以上」（55.8%）が最も高く、次いで「1年以上10年未満」（21.6%）、「10年以上20年未満」（18.6%）、「1年未満」（3.8%）となっている。

年代別でみると、「20年以上」居住していると回答した60代、70代及び80代以上の割合（72.1%、79.9%、81.4%）は、7割を超えている。

4. 避難困難な同居家族（回答者本人も含む）の有無

問3 あなたご自身またはあなたの同居する家族に、自ら避難することが困難な方や避難に時間がかかる方（高齢者、障害をお持ちの方、乳幼児、妊産婦など）はいらっしゃいますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

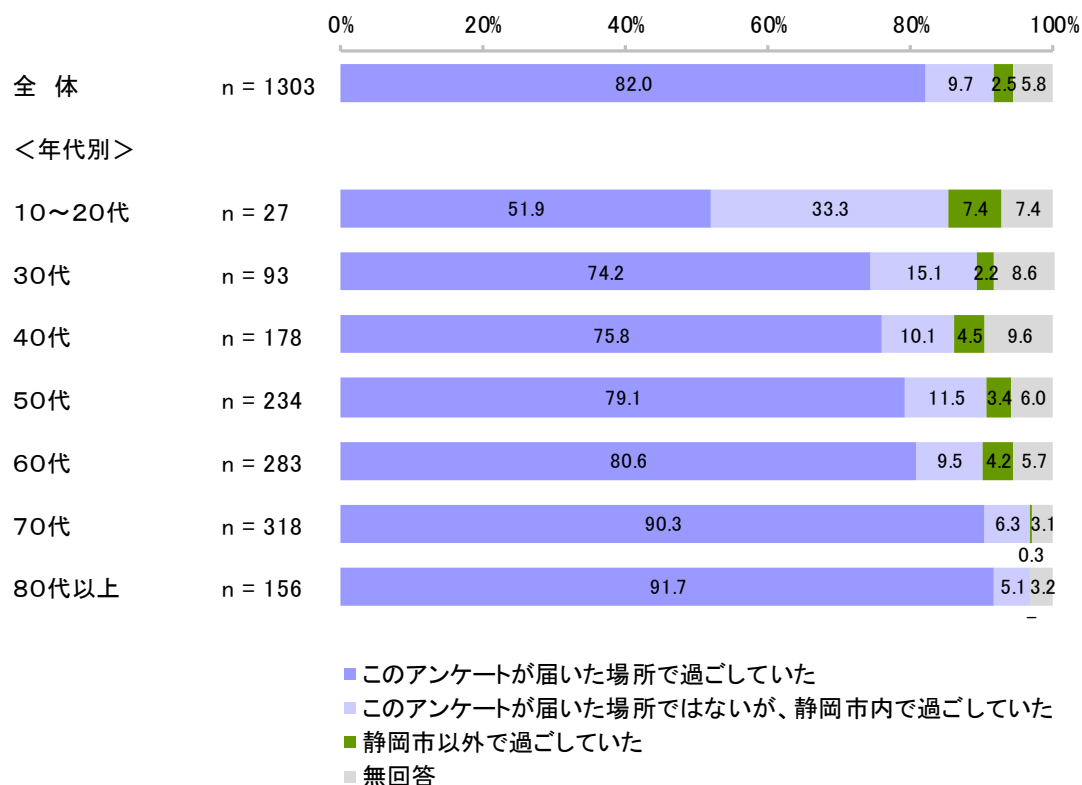


避難が困難な同居家族の有無（回答者本人も含む）については、「いる」が28.5%、「いない」が71.1%となっている。

年代別で見ると、「いる」と回答した30代及び80代以上の割合（43.0%、45.5%）は、他の年代と比べて高い。

5. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時過ごしていた場所

問4 台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、どこで過ごしていましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）



台風第15号により静岡市で大雨となった当時（令和4年9月23日（金）～24日（土））過ごしていた場所については、「このアンケートが届いた場所で過ごしていた」（82.0%）が8割以上を占める。

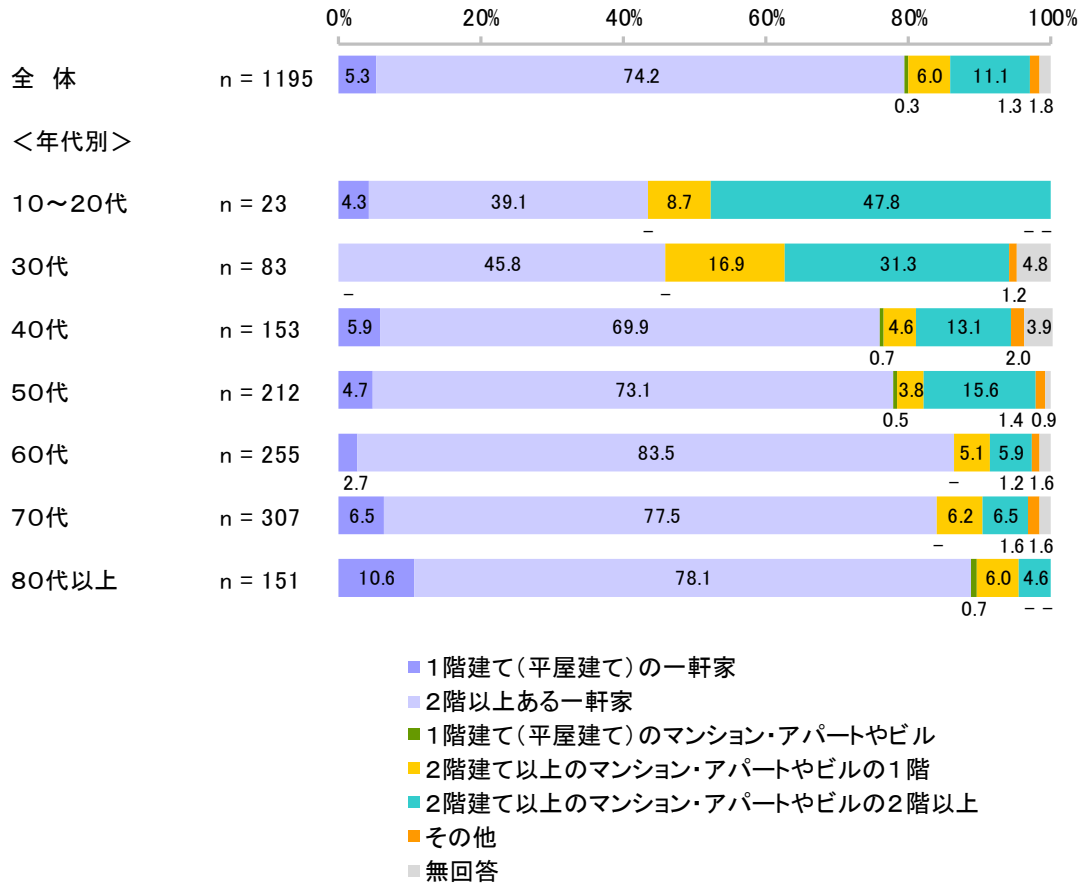
年代別で見ると、いずれの年代でも、大半が「このアンケートが届いた場所で過ごしていた」または「このアンケートが届いた場所ではないが、静岡市内で過ごしていた」と回答している。

6. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時過ごしていた建物

問5 台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、どのような構造の建物で過ごしていましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

n=1,195

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、静岡市内で過ごしていた



台風第15号により静岡市で大雨となった当時（令和4年9月23日（金）～24日（土））過ごしていた建物については、「2階以上ある一軒家」（74.2%）が最も高く、次いで「2階建て以上のマンション・アパートやビルの2階以上」（11.1%）、「2階建て以上のマンション・アパートやビルの1階」（6.0%）、「1階建て（平屋建て）の一軒家」（5.3%）などとなっている。

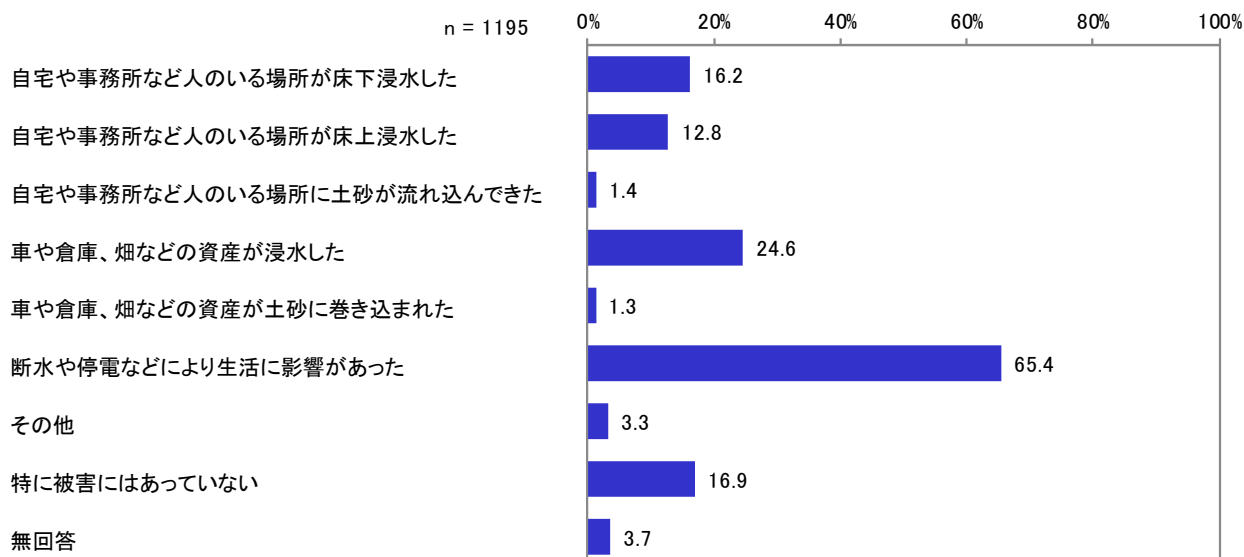
年代別で見ると、年代が上がるにつれて、一軒家の割合が高くなっている。

7. 台風第 15 号による被害

問6 台風第 15 号により、どのような被害にあわれましたか。次のうち、あてはまるものを全て選び、数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

n=1,195

ベース：台風第 15 号により静岡市で大雨となった令和 4 年 9 月 23 日（金）～24 日（土）当時、静岡市内で過ごしていた



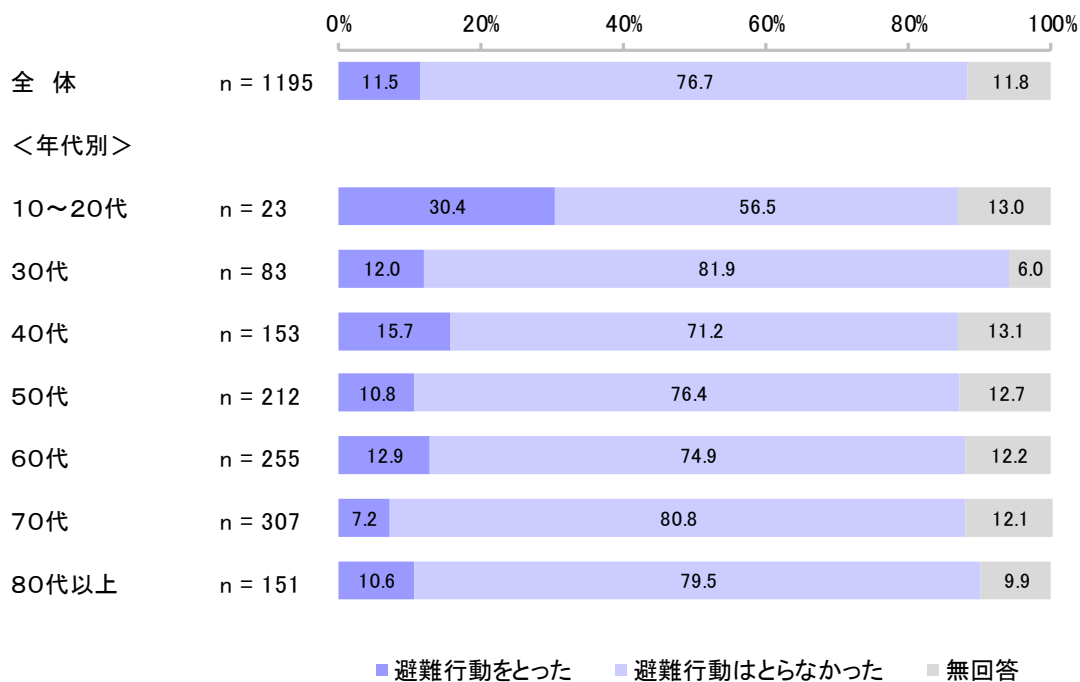
台風第 15 号による被害については、「断水や停電などにより生活に影響があった」（65.4%）が最も高く、次いで「車や倉庫、畑などの資産が浸水した」（24.6%）、「自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した」（16.2%）、「自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した」（12.8%）などとなっている。

8. 台風第15号により静岡市で大雨となった当時の避難行動の有無

問7 台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）に避難行動をとりましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）
 なお、2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に移動するといった行動も避難行動とみなしてください。

n=1,195

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、静岡市内で過ごしていた



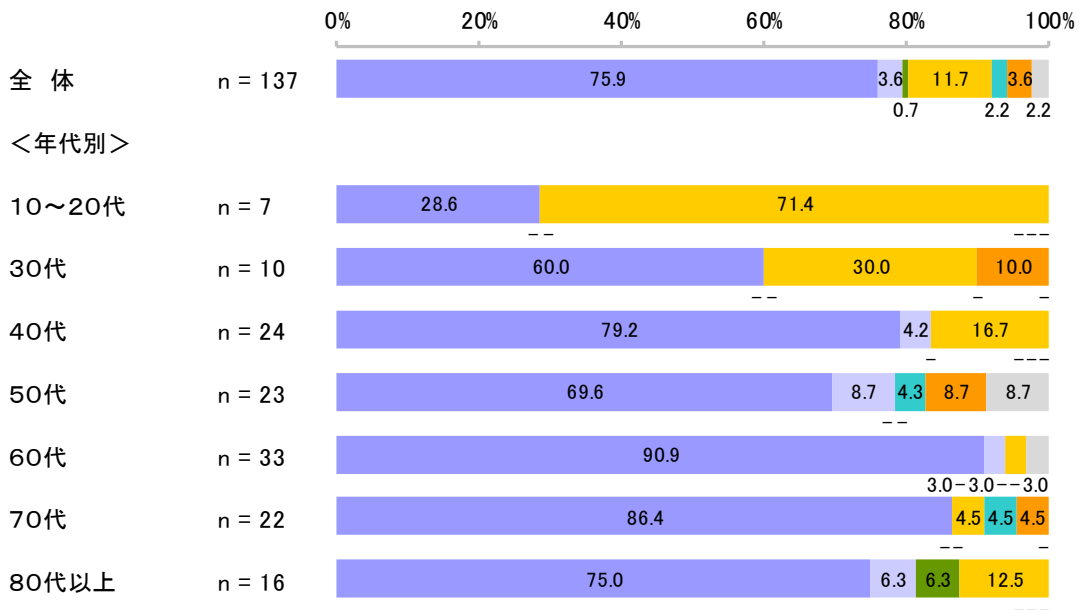
台風第15号により静岡市で大雨となった当時（令和4年9月23日（金）～24日（土））の避難行動の有無については、「避難行動をとった」は11.5%、「避難行動はとらなかった」は76.7%である。

9. 避難行動の種別

問8 どのような避難行動をとりましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。(○は1つ)
 なお、段階的にいくつかの避難行動をとった人は、最終的にとった行動を選択してください。

n=137

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、静岡市内で過ごしていた、かつ、避難行動をとった



- 2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に避難した
- 近隣の安全な場所 (近隣のマンションの上層階など)に避難した
- 静岡市が指定する近くの避難場所 (公民館、学校など)に避難した
- 親戚や知人の家などに避難した
- ホテルや旅館などに避難した
- その他
- 無回答

避難行動の種別については、「2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に避難した」(75.9%)が最も高く、次いで「親戚や知人の家などに避難した」(11.7%)、「近隣の安全な場所 (近隣のマンションの上層階など)に避難した」(3.6%)などとなっている。

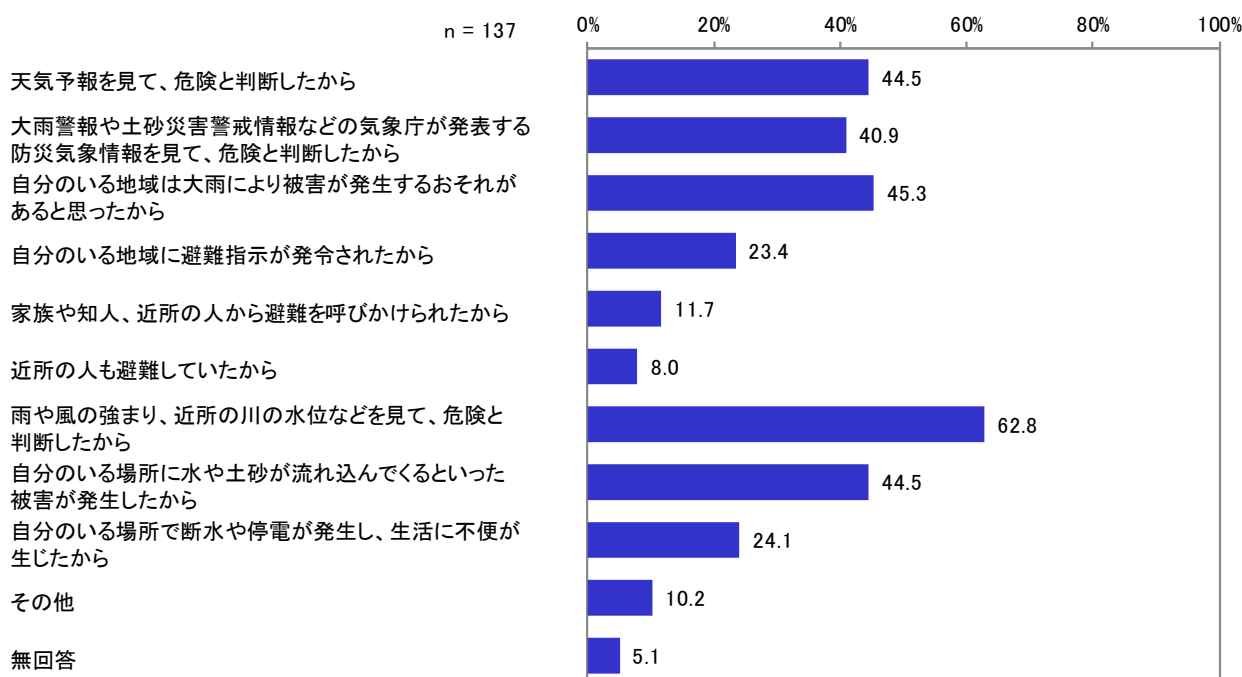
10. 避難行動をとることを判断した決め手

(1) 避難行動をとることを判断した決め手

問9 避難行動をとることを判断した決め手は何でしたか。
 ① 決め手となったもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

n=137

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、静岡市内で過ごしていた、かつ、避難行動をとった



避難行動をとることを判断した決め手については、「雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから」(62.8%)が最も高く、次いで「自分のいる地域は大雨により被害が発生するおそれがあると思ったから」(45.3%)、「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから」(44.5%)、「天気予報を見て、危険と判断したから」(44.5%)、「大雨警報や土砂災害警戒情報などの気象庁が発表する防災気象情報を見て、危険と判断したから」(40.9%)などとなっている。

Ⅱ. 調査結果

<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> 全体 +10ポイント以上 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> 全体 +5ポイント以上 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> 全体 -5ポイント以上 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> 全体 -10ポイント以上 </div> </div>	調査数	天気予報を見たから	大雨警報や土砂災害警戒情報などを見て、危険と判断したから	自分のいる地域は大雨により被害が発生するおそれがあると	自分のいる地域に避難指示が発令されたから	家族や知人、近所の人から避難を呼びかけられたから	近所の人も避難していたから	雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから	流れ込んだるといった被害が発生したから	自分のいる場所にと水や土砂が	自分のいる場所で断水や停電が	その他	無回答
	全体	137	44.5	40.9	45.3	23.4	11.7	8.0	62.8	44.5	24.1	10.2	5.1
年代別	10~20代	7	42.9	28.6	14.3	28.6	-	42.9	14.3	57.1	-	-	
	30代	10	10.0	20.0	10.0	20.0	-	10.0	30.0	20.0	20.0	20.0	
	40代	24	50.0	45.8	41.7	33.3	16.7	16.7	79.2	50.0	16.7	4.2	-
	50代	23	47.8	30.4	43.5	4.3	8.7	4.3	60.9	43.5	26.1	17.4	4.3
	60代	33	54.5	42.4	51.5	24.2	12.1	6.1	66.7	51.5	21.2	3.0	3.0
	70代	22	45.5	54.5	68.2	27.3	9.1	9.1	81.8	59.1	36.4	13.6	4.5
	80代以上	16	31.3	37.5	43.8	25.0	12.5	12.5	43.8	25.0	12.5	12.5	12.5

(2) 避難行動をとる判断に最も影響があったもの

問9 避難行動をとることを判断した決め手は何でしたか。
 ② ①で選んだ中から、最も判断に影響があったと思うものに1つだけ○をつけてください。
 (○は1つ)

n=137

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日(金)～24日(土)当時、静岡市内で過ごしていた、かつ、避難行動をとった



避難行動をとる判断に最も影響があったものについては、「雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから」(28.5%)が最も高く、次いで「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから」(25.5%)となっている。

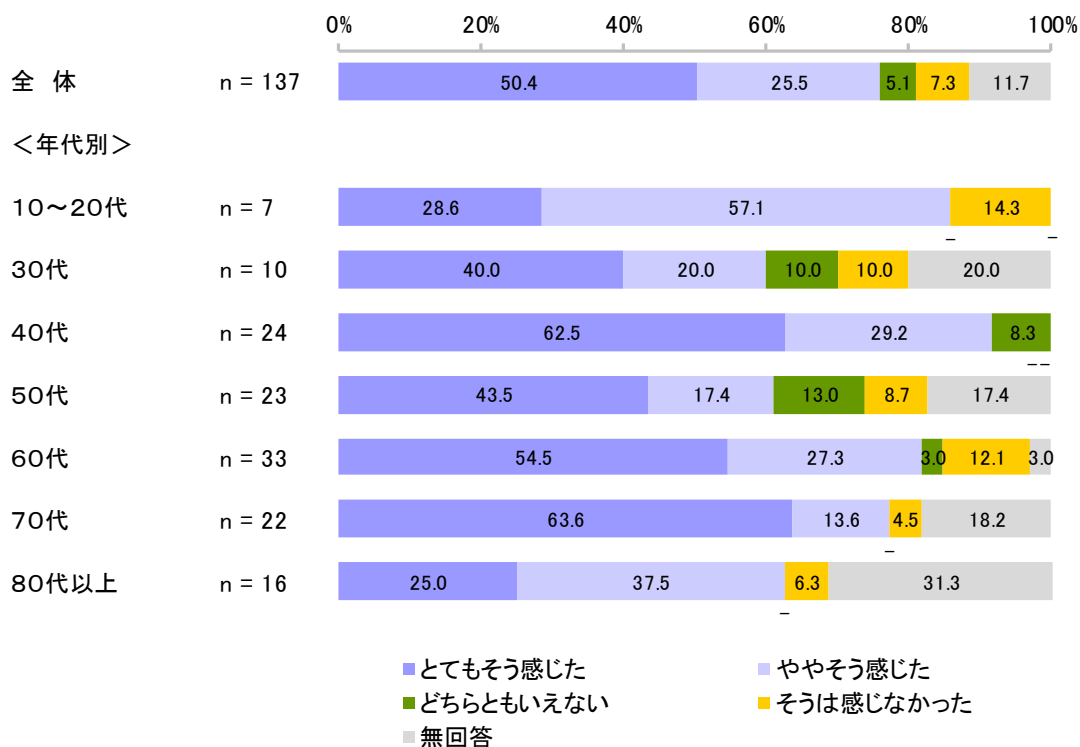
11. 避難時の不安や困りごと

問 10 避難する際に、次のような不安や困りごとに直面しましたか。次の各項目について、最も近いものを選び、○をつけてください。(○は1つ)

n=137

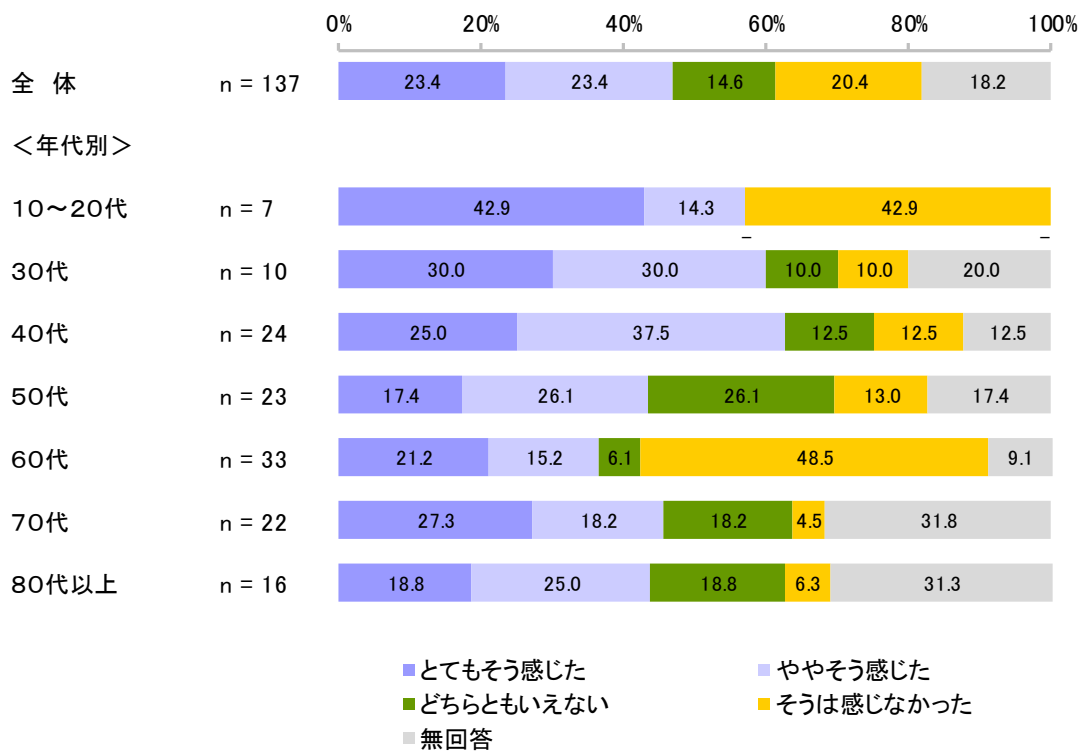
ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、静岡市内で過ごしていた、かつ、避難行動をとった

（1）想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑った



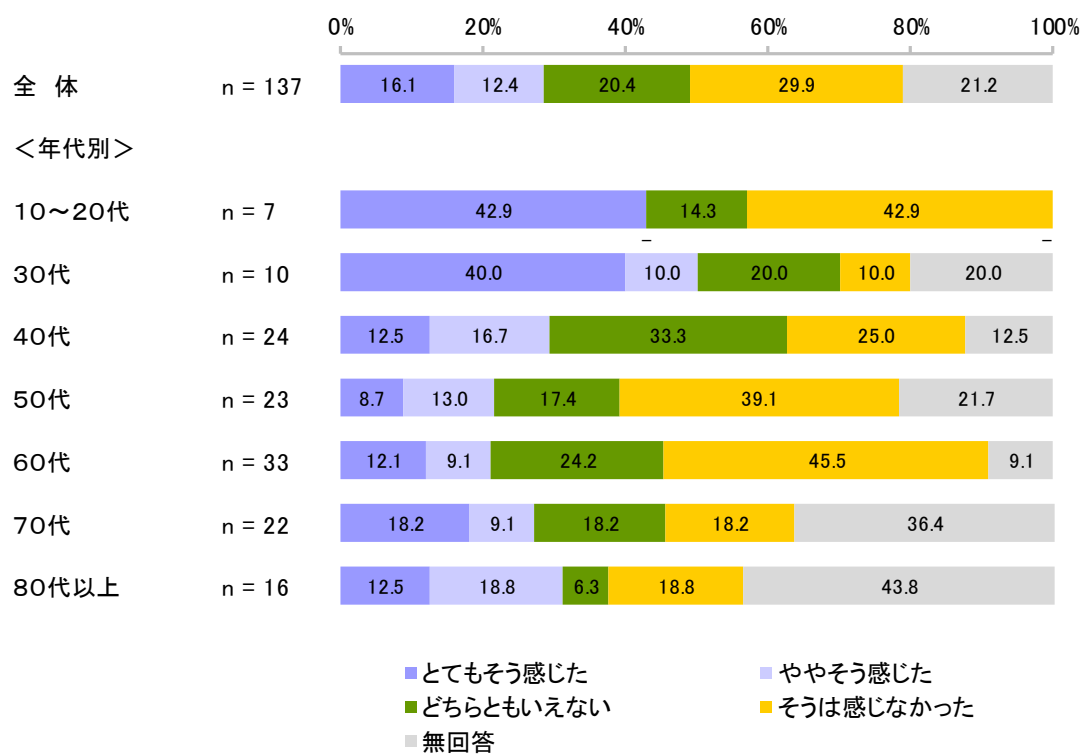
避難時の困りごとについて、想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑ったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」（50.4%）と「ややそう感じた」（25.5%）を合わせた『そう感じた』は75.9%となっている。

(2) どの情報を決め手にして避難を開始すればいいのか迷った



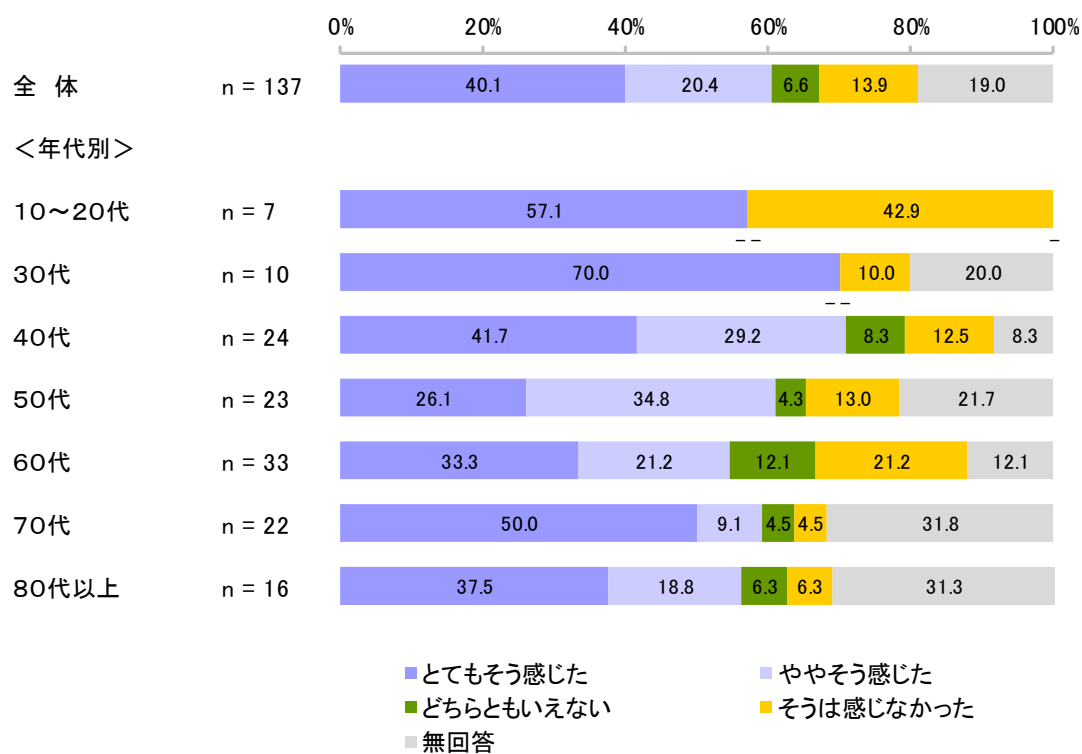
避難時の困りごとについて、どの情報を決め手にして避難を開始すればいいのか迷ったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」(23.4%)、と「ややそう感じた」(23.4%)を合わせた『そう感じた』は46.8%となっている。

(3) 避難先や避難ルートを探るのが困難だった



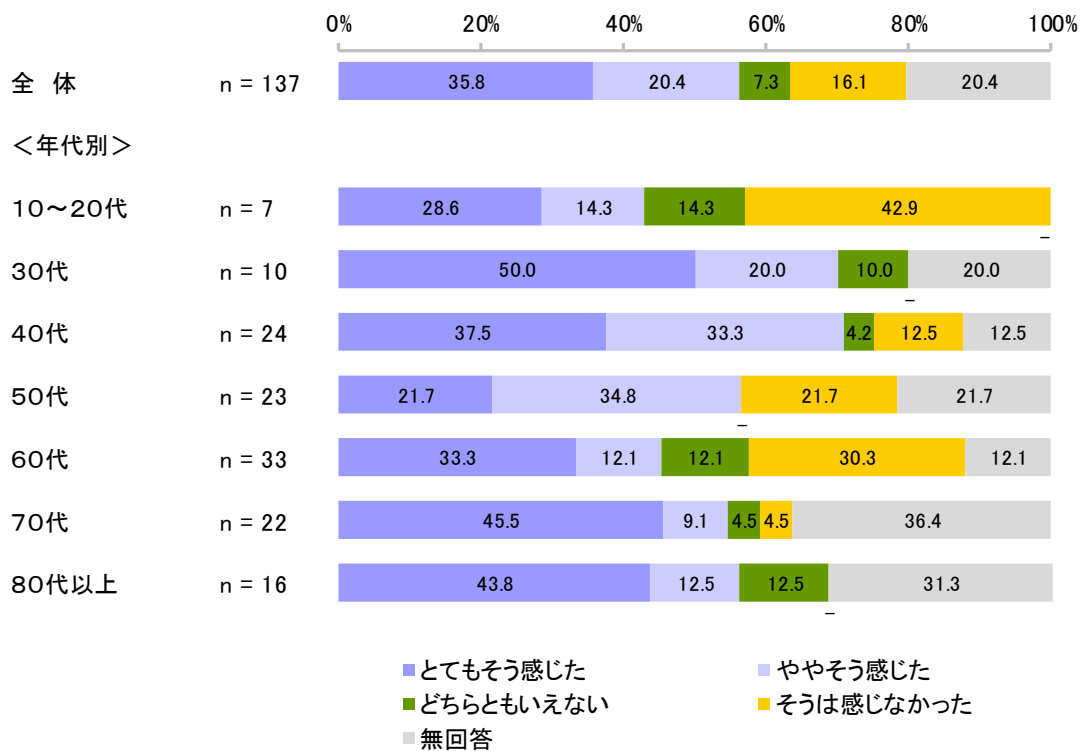
避難時の困りごとについて、避難先や避難ルートを探るのが困難だったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」(16.1%)と「ややそう感じた」(12.4%)を合わせた『そう感じた』は28.5%となっている。

(4) 大雨の中、屋外を移動するのが不安だった



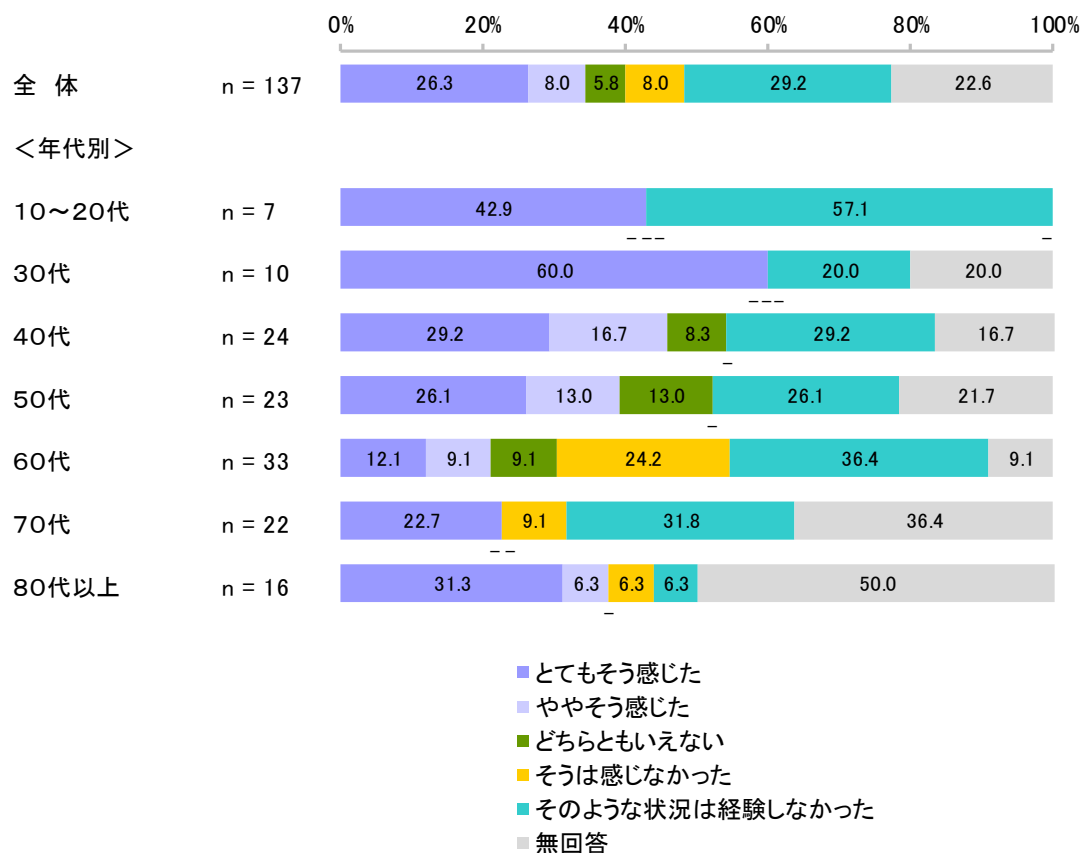
避難時の困りごとについて、大雨の中、屋外を移動するのが不安だったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」(40.1%)と「ややそう感じた」(20.4%)を合わせた『そう感じた』は60.5%となっている。

(5) 暗い中、屋外を移動するのが不安だった



避難時の困りごとについて、暗い中、屋外を移動するのが不安だったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」(35.8%)と「ややそう感じた」(20.4%)を合わせた『そう感じた』は56.2%となっている。

(6) 小さな子供や高齢者など手助けを必要とする人を連れて移動することが不安だった／困難だった



避難時の困りごとについて、小さな子供や高齢者など手助けを必要とする人を連れて移動することが不安だった／困難だったかどうか聞いたところ、「とてもそう感じた」(26.3%)と「ややそう感じた」(8.0%)を合わせた『そう感じた』は34.3%となっている。なお、「そのような状況は経験しなかった」は29.2%となっている。

12. 避難行動をとらなかった理由

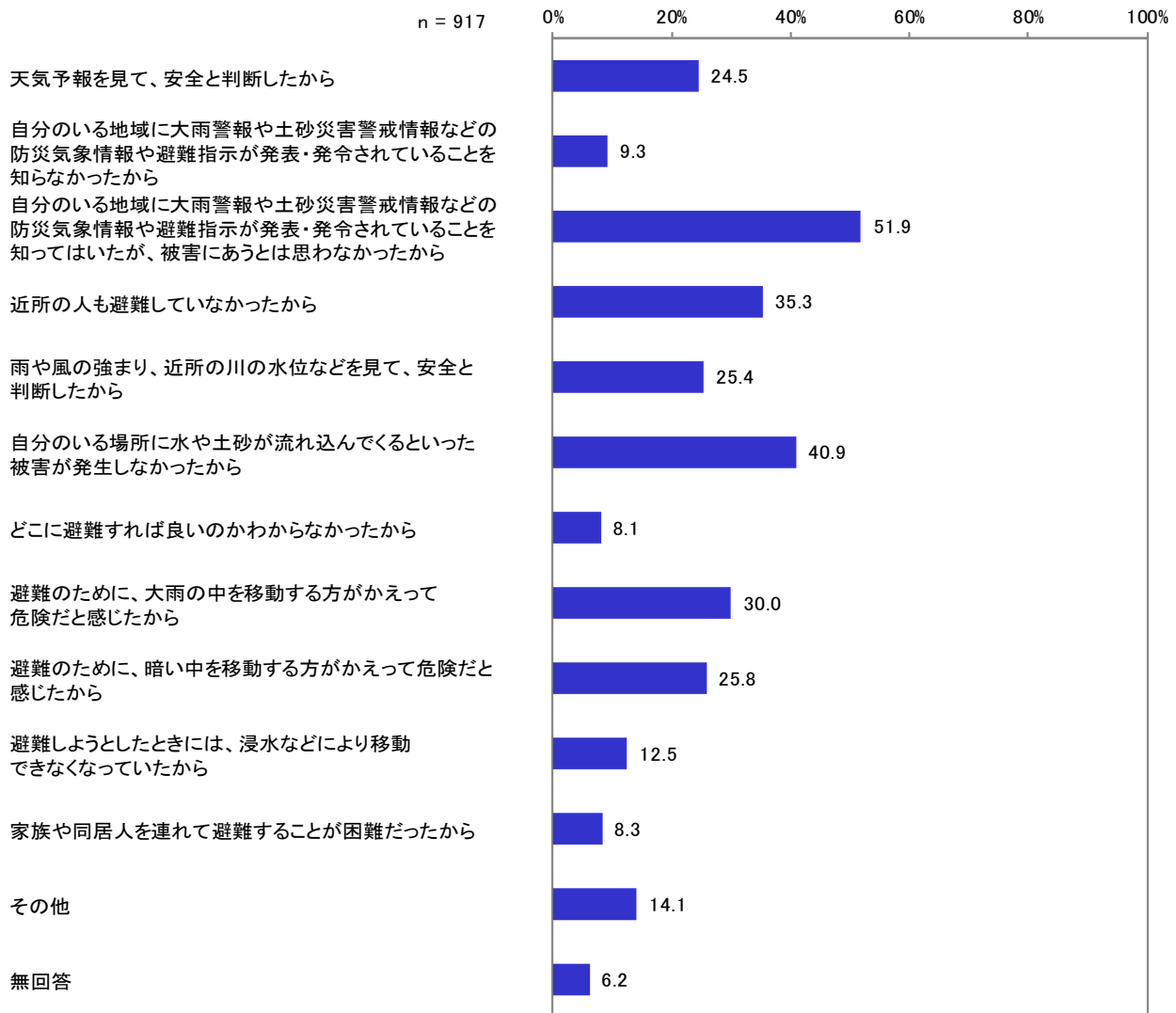
(1) 避難行動をとらなかった理由

問 11 避難行動をとらなかった理由は何でしたか。

① 判断した理由としてあてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

n=917

ベース：台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日(金)～24日(土)当時、静岡市内で過ごしていた、かつ、避難行動をとらなかった



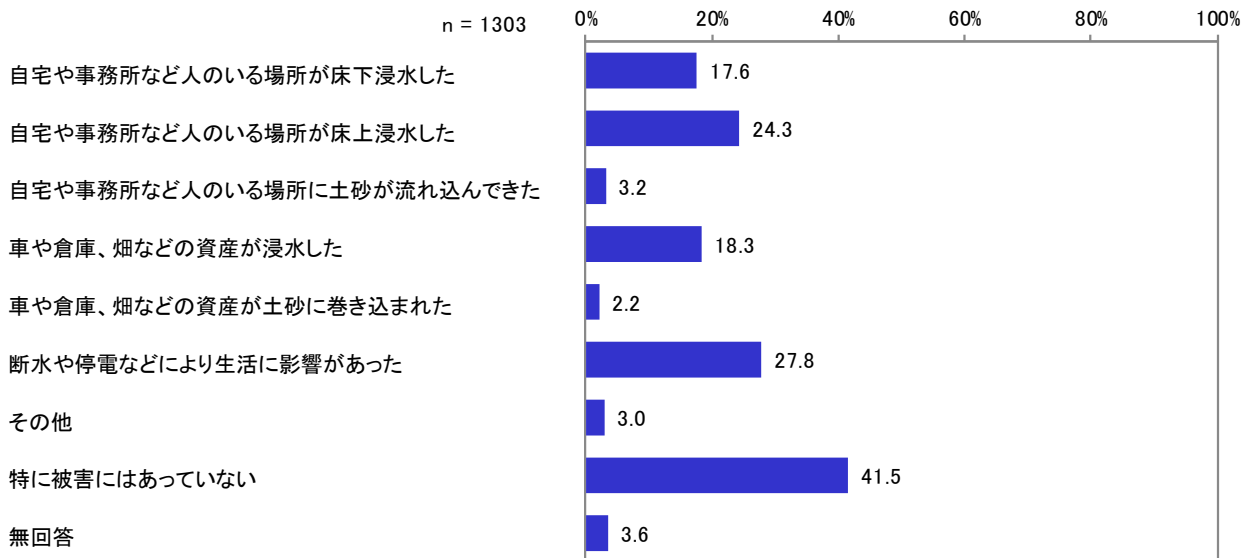
避難行動をとらないと判断した理由については、「自分のいる地域に大雨警報や土砂災害警戒情報などの防災気象情報や避難指示が発表・発令されていることを知ってはいたが、被害にあうとは思わなかったから」(51.9%)が最も高く、次いで「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生しなかったから」(40.9%)、「近所の人でも避難していなかったから」(35.3%)、「避難のために、大雨の中を移動する方がかえって危険だと感じたから」(30.0%)、「避難のために、暗い中を移動する方がかえって危険だと感じたから」(25.8%)、「雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、安全と判断したから」(25.4%)、「天気予報を見て、安全と判断したから」(24.5%)などとなっている。

調査数	天気予報を見て、安全と判断したから	知らなかつたから	自分のいる地域に大雨警報や土砂災害警戒情報などが発表・発令されたこと	自分のいる地域に大雨警報や土砂災害警戒情報などが発表・発令されたこと	近所の人も避難していなかったから	雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、安全と判断したから	被害が発生しなかつたから	自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった	どこに避難すれば良いのかわからなかつたから	避難のために、大雨の中を移動する方がかえって危険だと感じたから	避難のために、暗い中を移動する方がかえって危険だと感じたから	避難しようとしたときには、浸水などにより移動できなくなつていたから	家族や同居人を連れて避難することが困難だったから	その他	無回答
全 体	917	24.5	9.3	51.9	35.3	25.4	40.9	8.1	30.0	25.8	12.5	8.3	14.1	6.2	
10～20代	13	15.4	7.7	46.2	23.1	30.8	61.5	23.1	53.8	38.5	23.1	-	7.7	-	
30代	68	23.5	10.3	54.4	36.8	22.1	45.6	10.3	42.6	41.2	13.2	19.1	11.8	-	
40代	109	13.8	11.0	50.5	40.4	20.2	39.4	10.1	44.0	37.6	13.8	14.7	18.3	0.9	
50代	162	24.7	8.0	53.1	37.7	24.7	41.4	9.3	30.9	23.5	11.1	8.0	16.7	2.5	
60代	191	25.7	9.9	53.4	36.6	34.0	42.9	8.4	32.5	28.8	16.8	10.5	12.0	3.1	
70代	248	29.0	9.3	52.8	33.1	24.6	39.9	5.6	20.6	18.5	11.7	3.2	15.7	7.3	
80代以上	120	24.2	8.3	45.8	30.0	20.8	36.7	5.8	20.8	18.3	5.8	5.0	8.3	23.3	

年代別でみると、「避難のために、大雨の中を移動する方がかえって危険だと感じたから」及び「避難のために、暗い中を移動する方がかえって危険だと感じたから」と回答した40代以下の各年代の割合(53.8%、42.6%、44.0%) (38.5%、41.2%、37.6%)は、他の年代と比べて高い。また、「家族や同居人を連れて避難することが困難だったから」と回答した30代及び40代の割合(19.1%、14.7%)は、他の年代と比べて高い。

13. 台風第15号より前の大雨災害での被災経験

問12 台風第15号より前に、大雨災害で被災された経験はありますか。今お住まいの地域以外でのご経験も含め、お答えください。次のうち、あてはまるものを全て選び、数字に○をつけてください。(○はいくつでも)



台風第15号より前の大雨災害での被災経験については、「特に被害にはあっていない」(41.5%)が最も高く、次いで「断水や停電などにより生活に影響があった」(27.8%)、「自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した」(24.3%)、「車や倉庫、畑などの資産が浸水した」(18.3%)、「自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した」(17.6%)などとなっている。

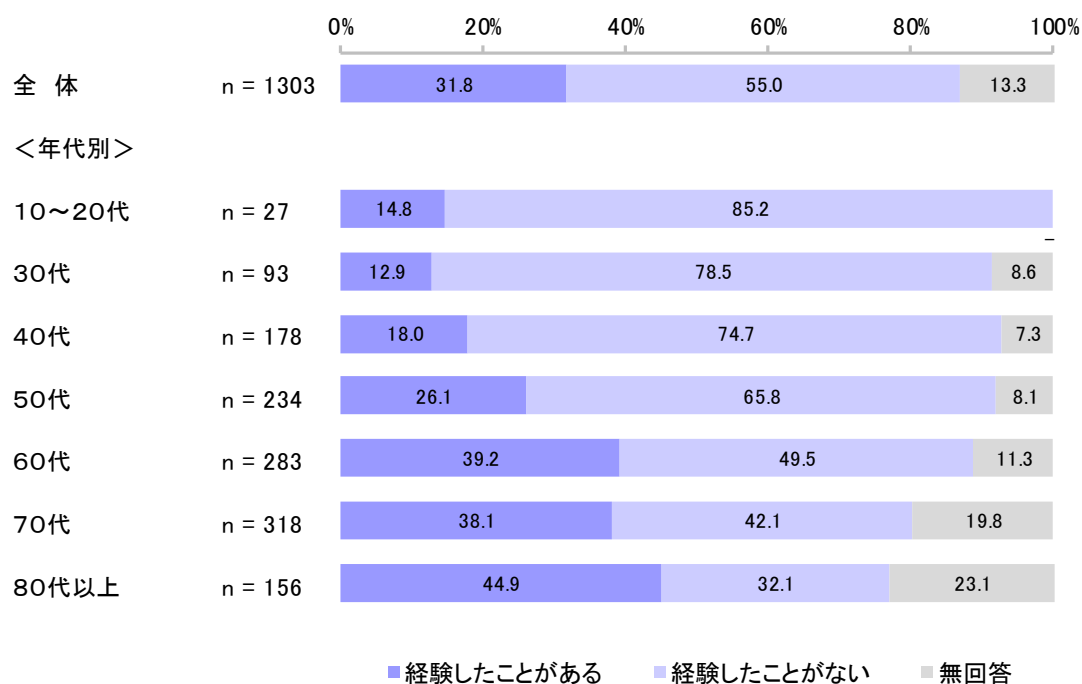
	調査数	自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した	自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した	自宅や事務所など人のいる場所に土砂が流れ込んできた	車や倉庫、畑などの資産が浸水した	車や倉庫、畑などの資産が土砂に巻き込まれた	断水や停電などにより生活に影響があった	その他	特に被害にはあっていない	無回答
全体	1303	17.6	24.3	3.2	18.3	2.2	27.8	3.0	41.5	3.6
年代別	10~20代	27	7.4	3.7	3.7	3.7	33.3	-	63.0	-
	30代	93	1.1	2.2	-	2.2	-	16.1	77.4	4.3
	40代	178	13.5	4.5	0.6	9.0	0.6	18.5	61.8	4.5
	50代	234	21.8	23.5	2.6	16.2	1.7	22.2	44.0	2.1
	60代	283	21.9	35.3	3.9	21.9	1.4	26.9	32.9	1.1
	70代	318	19.8	28.9	3.8	24.2	2.8	34.6	31.8	4.4
	80代以上	156	15.4	35.9	7.1	25.6	5.1	39.7	25.6	7.1

年代別でみると、年代が上がるにつれて、被災した経験がある割合が高くなっている。また、「自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した」と回答した60代及び80代以上の割合(35.3%、35.9%)は、他の年代と比べて高い。

14. 大雨災害への備え

問 13 大雨災害への備えとして、以下の取り組みをこれまでに経験したことがありますか。次の各項目についてあてはまる方を選び、○をつけてください。(○は1つ)

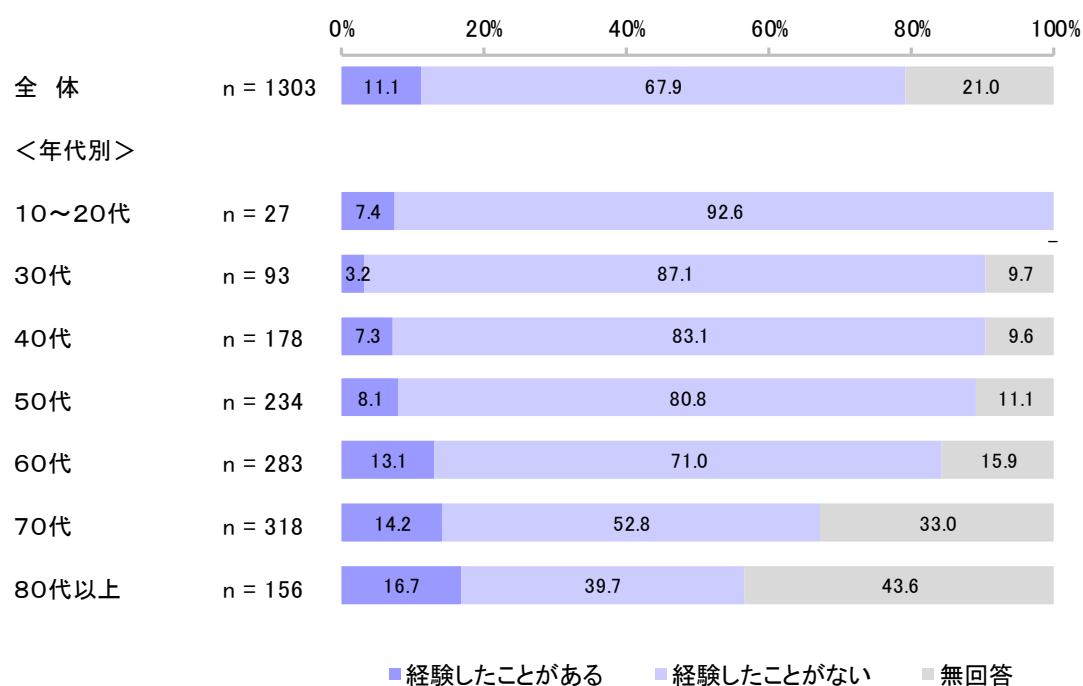
(1) 大雨災害に備えた地域の防災訓練に参加したこと



大雨災害への備えについて、大雨災害に備えた地域の防災訓練に参加したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が31.8%、「経験したことがない」が55.0%となっている。

年代別で見ると、年代が上がるにつれて、「経験したことがある」と回答した割合が高くなっている。

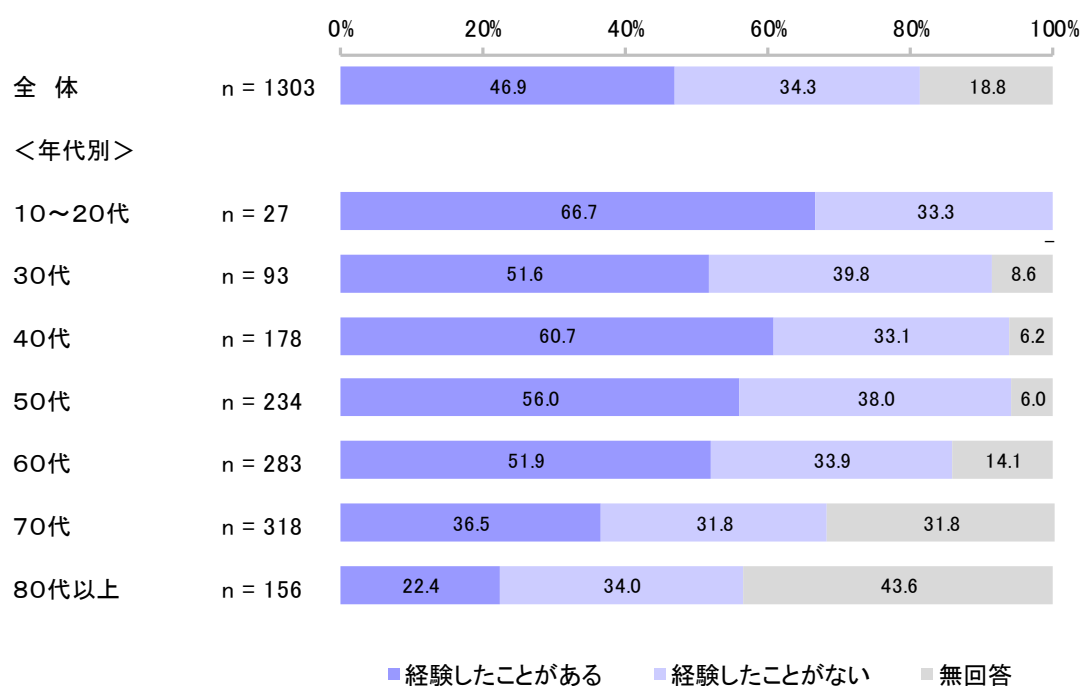
(2) 大雨災害に関する防災講座に参加したこと



大雨災害への備えについて、大雨災害に関する防災講座に参加したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が11.1%、「経験したことがない」が67.9%となっている。

年代別でみると、年代が上がるにつれて、「経験したことがある」と回答した割合が高くなっている。

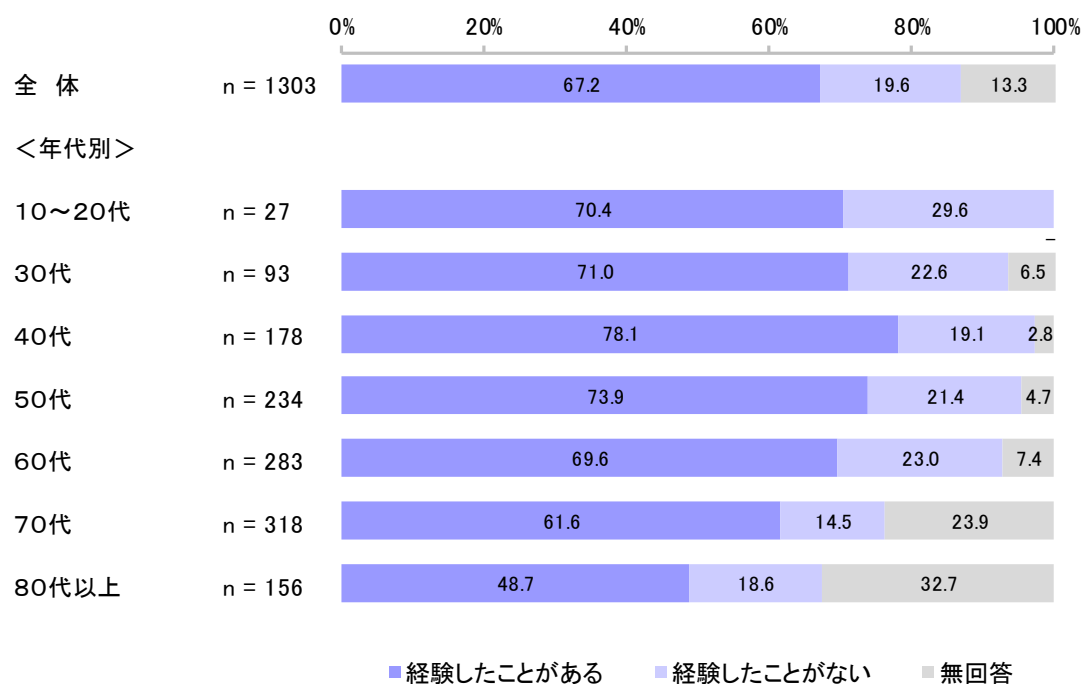
(3) 気象庁ホームページで防災気象情報を確認したこと



大雨災害への備えについて、気象庁ホームページで防災気象情報を確認したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が46.9%、「経験したことがない」が34.3%となっている。

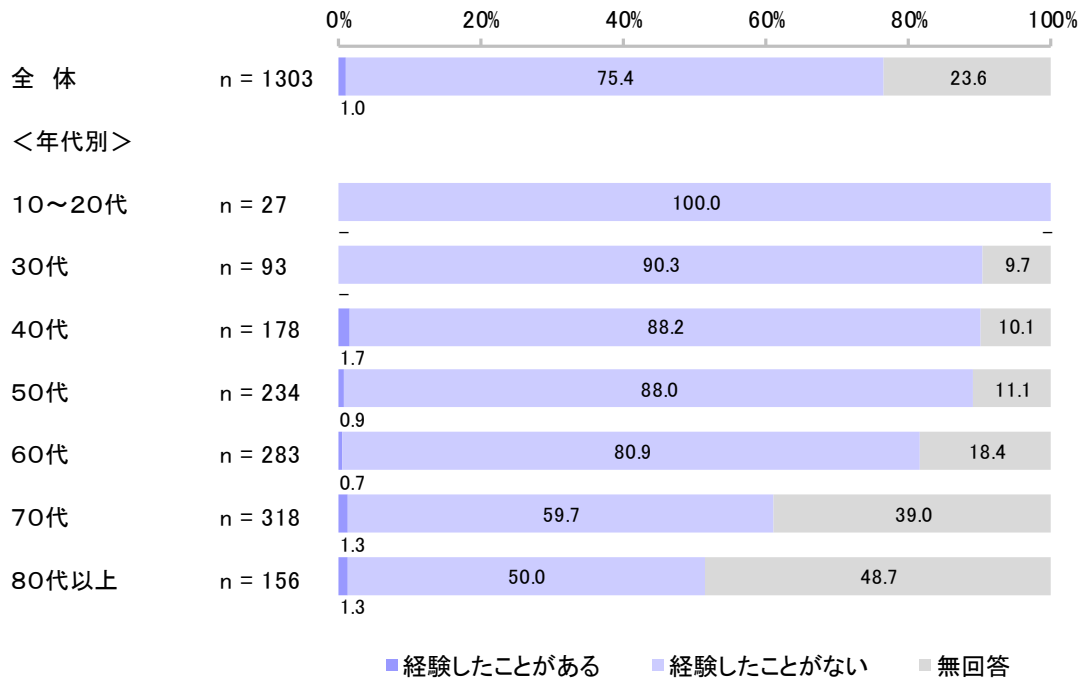
年代別でみると、60代以下の各年代では、「経験したことがある」が過半数を占める。また、「経験したことがある」と回答した70代及び80代以上の割合（36.5%、22.4%）は、他の年代に比べて低い。

(4) 現在お住まいの地域の洪水に関するハザードマップを確認したこと



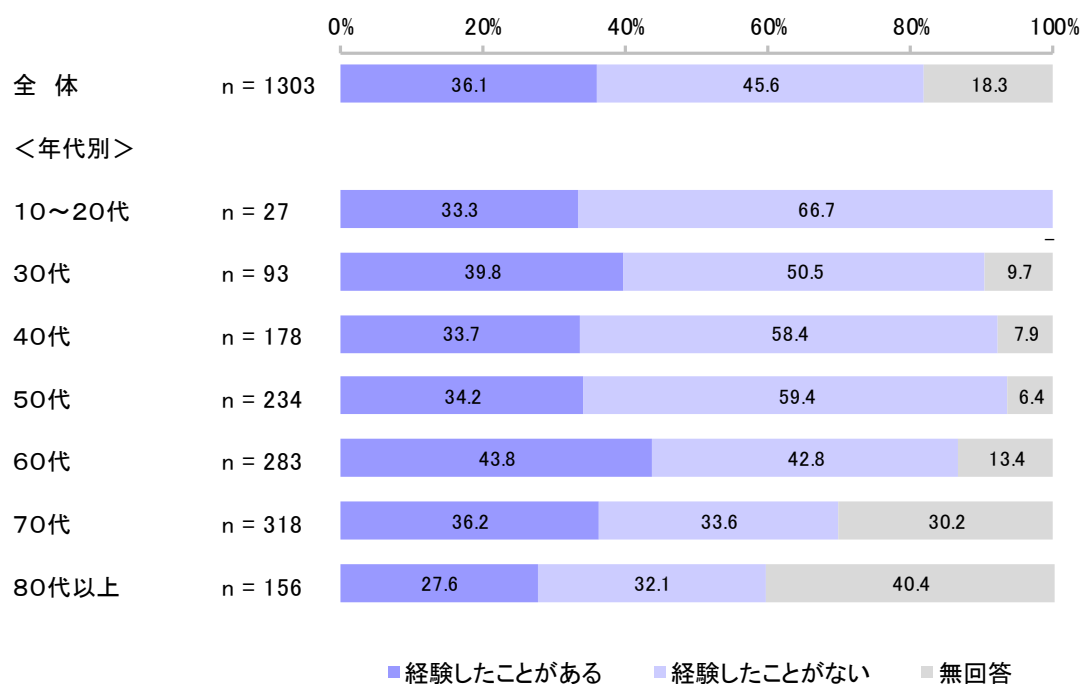
大雨災害への備えについて、現在お住まいの地域の洪水に関するハザードマップを確認したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が 67.2%、「経験したことがない」が 19.6%となっている。年代別でみると、「経験したことがある」と回答した 40 代の割合（78.1%）は、他の年代に比べて高い。

(5) マイ・タイムラインを作成したこと



大雨災害への備えについて、マイ・タイムラインを作成したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が1.0%、「経験したことがない」が75.4%となっている。

(6) 大雨災害時の避難場所や避難ルートについて確認したこと



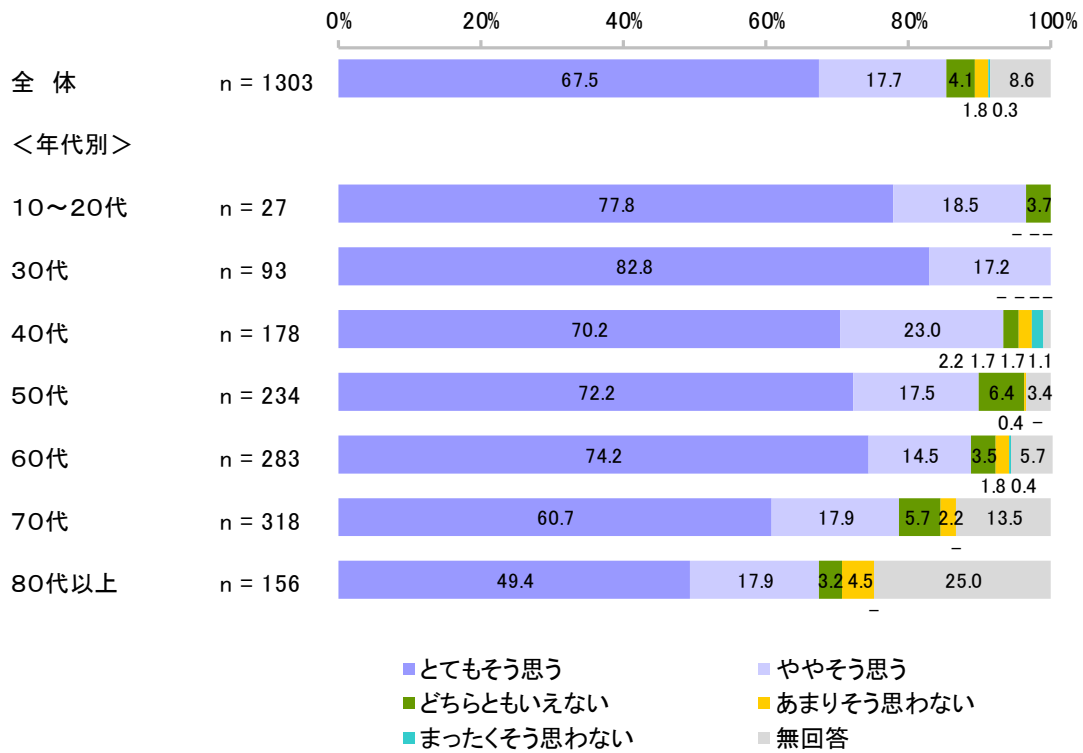
大雨災害への備えについて、大雨災害時の避難場所や避難ルートについて確認したことがあるかどうか聞いたところ、「経験したことがある」が36.1%、「経験したことがない」が45.6%となっている。

年代別でみると、「経験したことがある」と回答した60代の割合(43.8%)は、他の年代に比べて高い。

15. 大雨災害から命や財産を守るために身につけたい知識

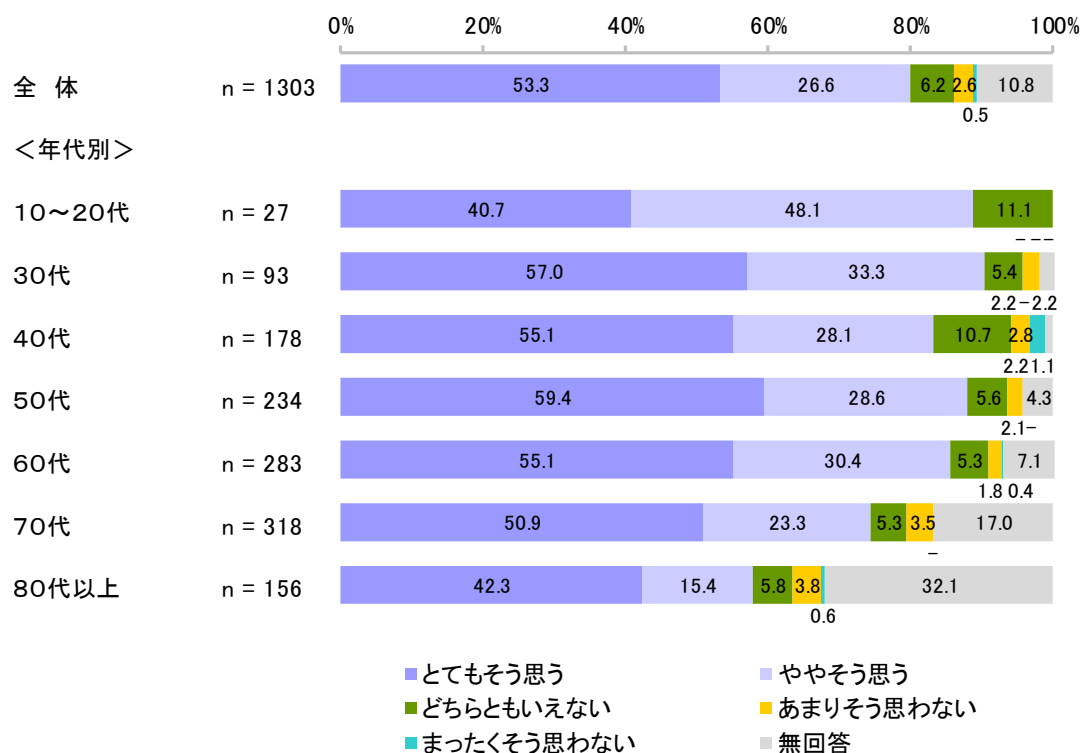
問 14 大雨災害から命や財産を守るために、今後、こういった知識を身につけたいと思いますか。次の各項目について、最も近いものを選び、○をつけてください。(○は1つ)

(1) 自分の住んでいる地域で、災害発生の危険性が高い箇所を事前に知っておきたい



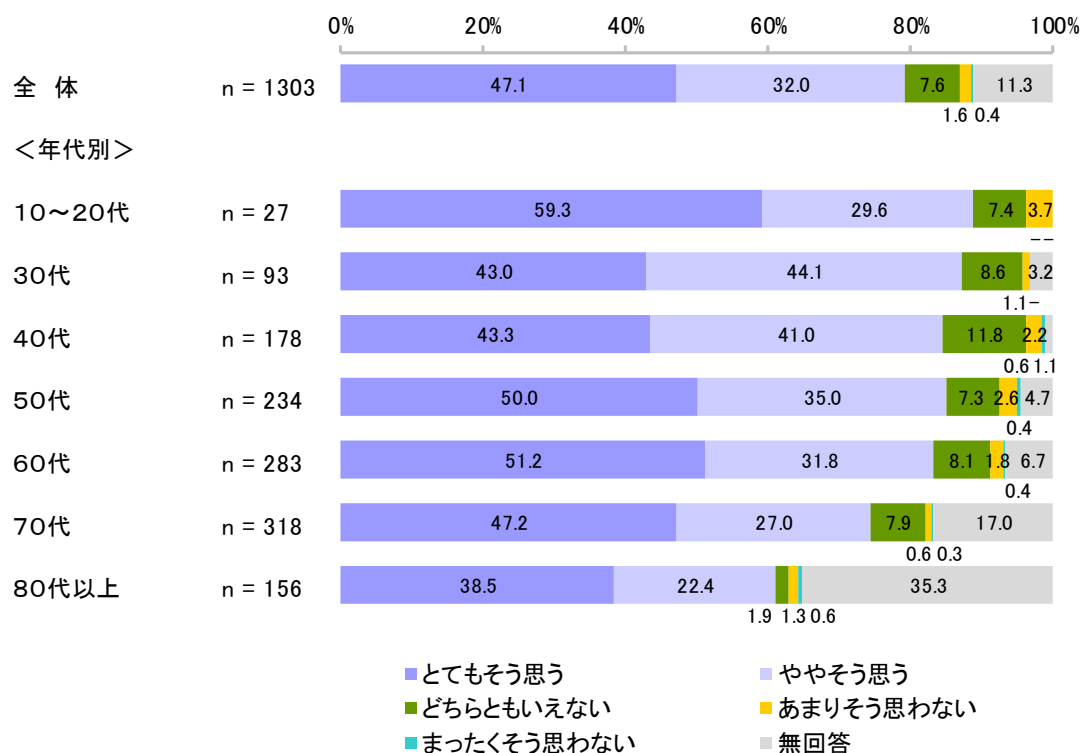
自分の住んでいる地域で、災害発生の危険性が高い箇所を事前に知っておきたいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(67.5%)と「ややそう思う」(17.7%)を合わせた『そう思う』は85.2%となっている。年代別でみると、「とてもそう思う」と回答した30代の割合(82.8%)は、他の年代に比べて高い。

(2) 自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が発生したのか知っておきたい



自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が発生したのか知っておきたいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(53.3%)と「ややそう思う」(26.6%)を合わせた『そう思う』は79.9%となっている。年代別で見ると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した60代以下の各年代の割合は、8割以上を占める。

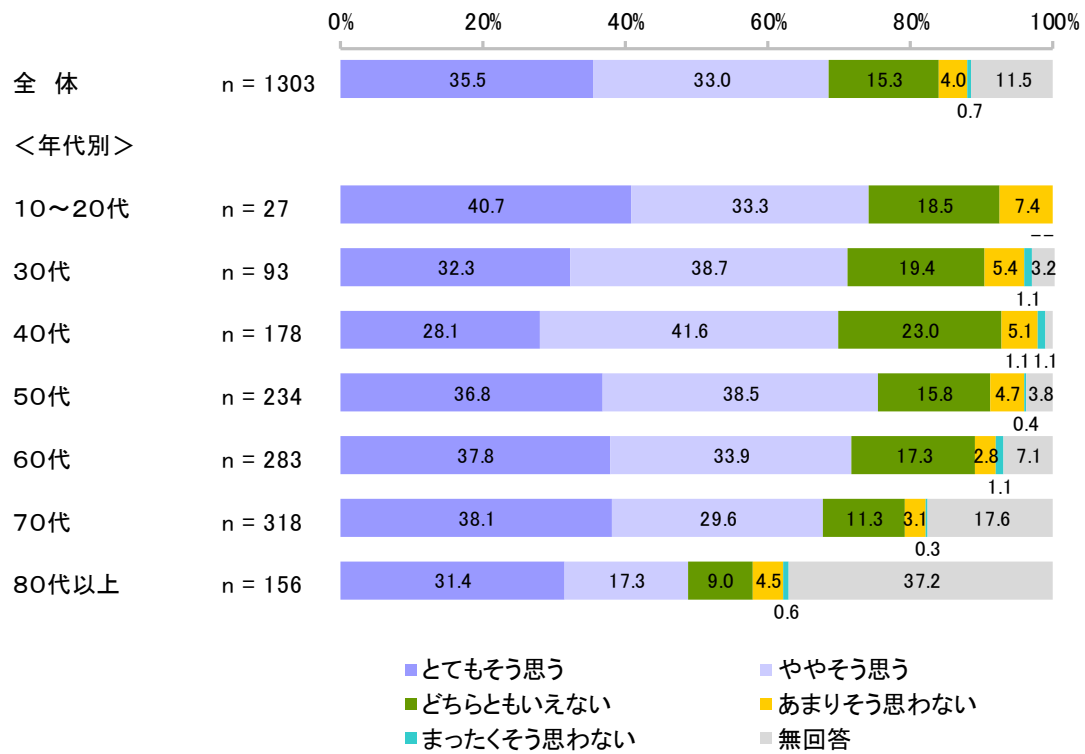
(3) 大雨警報や土砂災害警戒情報など、気象庁が発表する防災気象情報の意味を知っておきたい



大雨警報や土砂災害警戒情報など、気象庁が発表する防災気象情報の意味を知っておきたいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(47.1%)と「ややそう思う」(32.0%)を合わせた『そう思う』は79.1%となっている。

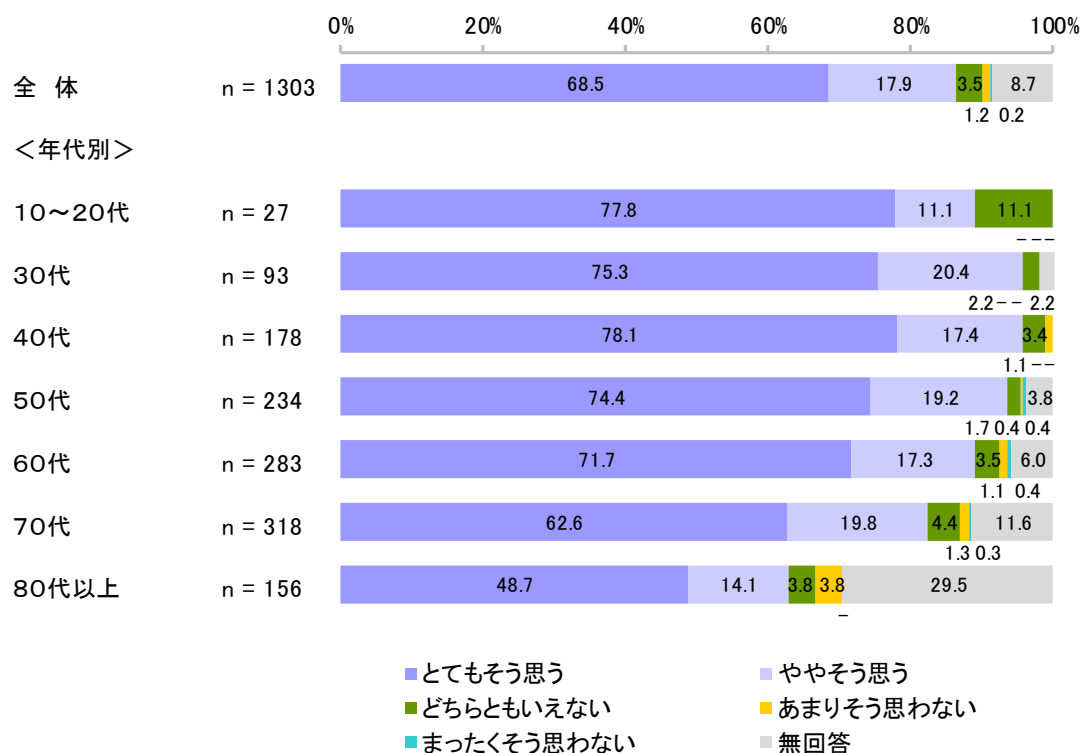
年代別でみると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した60代以下の各年代の割合は、8割以上を占める。

(4) 大雨災害がどのようなメカニズムで発生・進行していくのか知識を身につけたい



大雨災害がどのようなメカニズムで発生・進行していくのか知識を身につけたいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(35.5%)と「ややそう思う」(33.0%)を合わせた『そう思う』は68.5%となっている。年代別でみると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した60代以下の各年代の割合は、7割以上を占める。

(5) 災害発生危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認する方法を知っておきたい



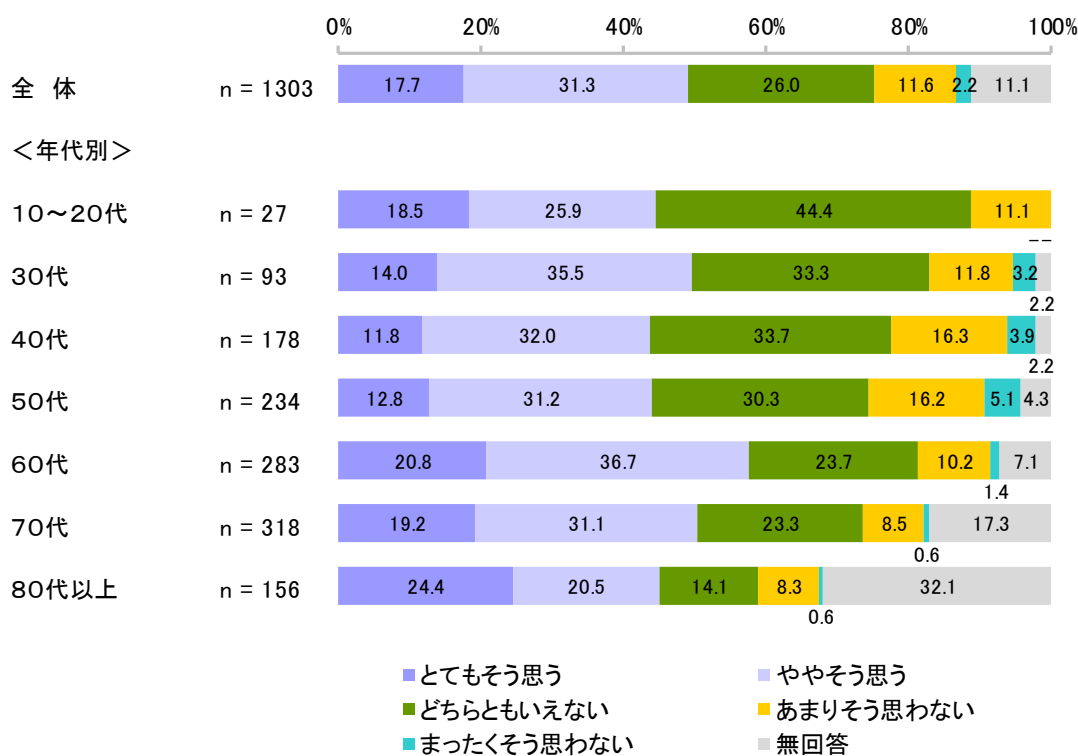
災害発生危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認する方法を知っておきたいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(68.5%)と「ややそう思う」(17.9%)を合わせた『そう思う』は86.4%となっている。

年代別で見ると、「とてもそう思う」と回答した60代以下の各年代の割合は、7割以上を占める。

16. 大雨災害への備えとして気象庁や自治体に期待する取り組み

問 15 今後、再び台風第 15 号のような大雨災害が発生することに備え、気象庁や地元の自治体にどのような取り組みを進めることを期待しますか。次の各項目について、最も近いものを選び、○をつけてください。(○は1つ)

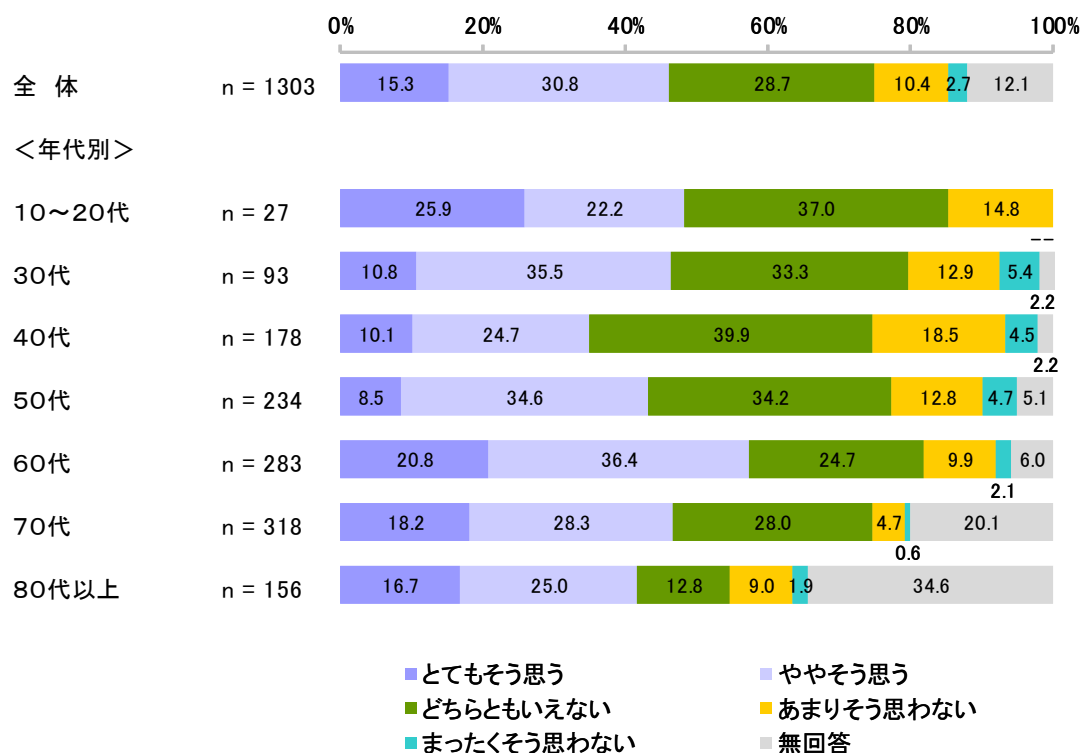
(1) 大雨災害を想定した避難訓練を開催してほしい



大雨災害の備えとして気象庁や自治体に期待する取り組みについて、大雨災害を想定した避難訓練を開催してほしいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(17.7%)と「ややそう思う」(31.3%)を合わせた『そう思う』は49.0%となっている。

年代別でみると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した60代の割合(57.5%)は、他の年代と比べて高い。また、「とてもそう思う」と回答した80代以上の割合(24.4%)は、他の年代と比べて高い。

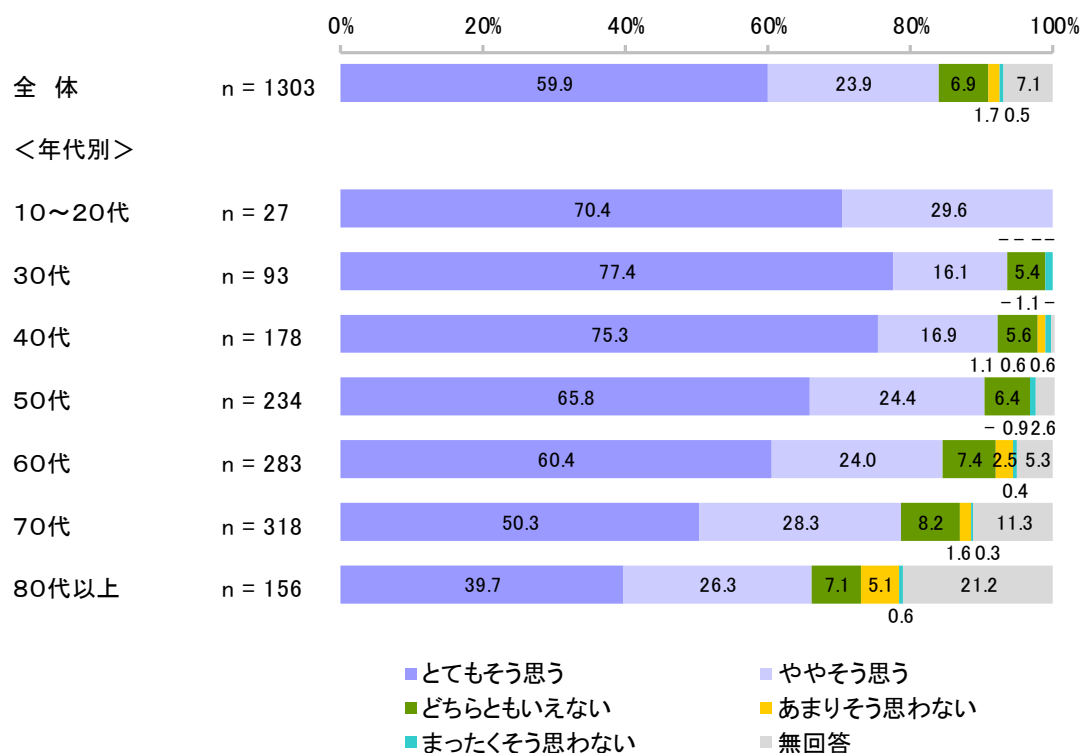
(2) 気象や防災について専門的な知識を持った人が講師を務める講座などを開催してほしい



大雨災害の備えとして気象庁や自治体に期待する取り組みについて、気象や防災について専門的な知識を持った人が講師を務める講座などを開催してほしいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」（15.3%）と「ややそう思う」（30.8%）を合わせた『そう思う』は46.1%となっている。

年代別でみると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した60代の割合（57.2%）は、他の年代と比べて高い。

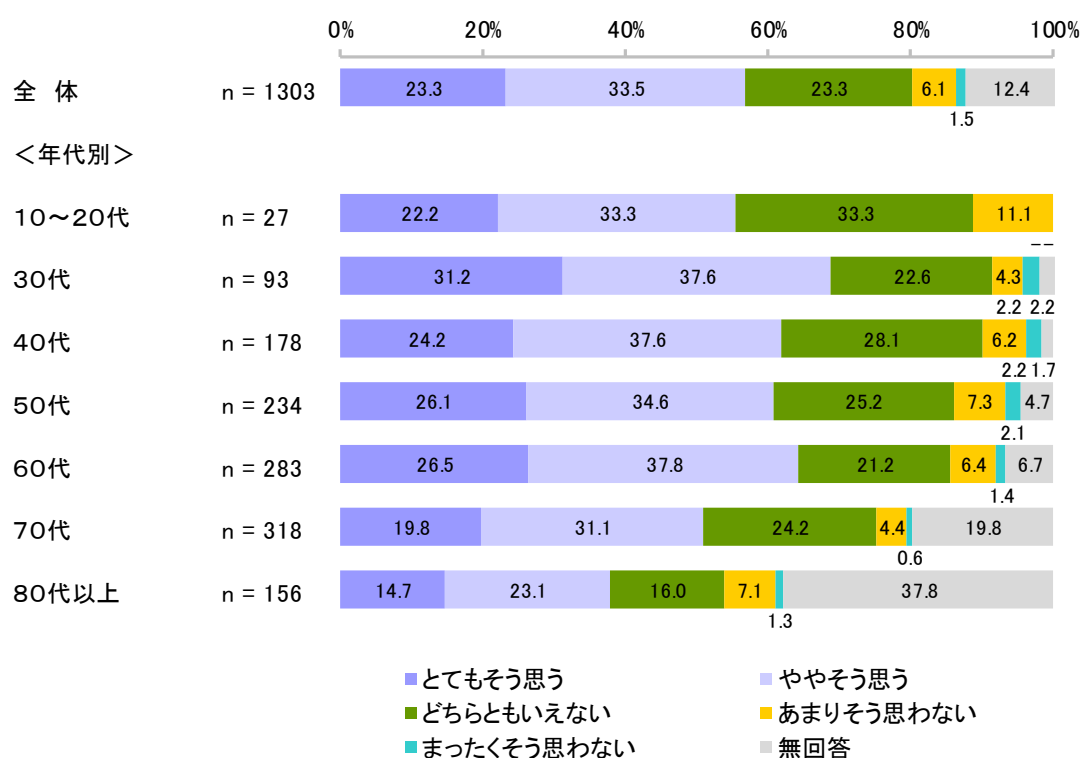
(3) 災害発生危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認できるツールがほしい



大雨災害の備えとして気象庁や自治体に期待する取り組みについて、災害発生危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認できるツールがほしいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(59.9%)と「ややそう思う」(23.9%)を合わせた『そう思う』は83.8%となっている。

年代別で見ると、年代が若いほど、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した割合が高くなっている

(4) 気象や防災について自主的に学習できるコンテンツを充実させてほしい



大雨災害の備えとして気象庁や自治体に期待する取り組みについて、気象や防災について自主的に学習できるコンテンツを充実させてほしいかどうか聞いたところ、「とてもそう思う」(23.3%)と「ややそう思う」(33.5%)を合わせた『そう思う』は56.8%となっている。

年代別でみると、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』と回答した30代の割合(68.8%)は、他の年代と比べて高い。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 令和4年台風第15号による被害状況

台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日(金)～24日(土)当時、本アンケート回答者の中で、静岡市内で過ごしていたと回答した人は91.7%である(問4)。

問4において静岡市内で過ごしていたと回答した人の79.4%が、この台風第15号により何かしらの被害にあったと回答している(問6)。具体的には、「断水や停電などにより生活に影響があった」(65.4%)、「車や倉庫、畑などの資産が浸水した」(24.6%)、「自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した」(16.2%)、「自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した」(12.8%)が主な被害である。

2. 避難状況

台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日(金)～24日(土)の避難行動の有無について(問7)は、「避難行動はとらなかった」が76.7%を占めており、「避難行動をとった」は11.5%にとどまる。

問7で「避難行動をとった」と回答した137人の避難行動の種別(問8)をみると、「2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に避難した」(75.9%)が最も高く、次いで「親戚や知人の家などに避難した」(11.7%)、「近隣の安全な場所(近隣のマンションの上層階など)に避難した」(3.6%)となっている。

問7及び問8の回答結果から避難行動を分類・集約すると、「屋内安全確保」をとったケース(問8で「自宅や事務所内の安全な場所」「近隣の安全な場所」を選択)が9.1%、「立退き避難」をとったケース(問8で「静岡市が指定する近くの避難場所(公民館、学校など)」「親戚や知人の家など」「ホテルや旅館など」又は「その他」を選択)が2.1%、「避難行動はとらなかった」が76.7%となる。

3. 避難行動をとった理由、とらなかった理由

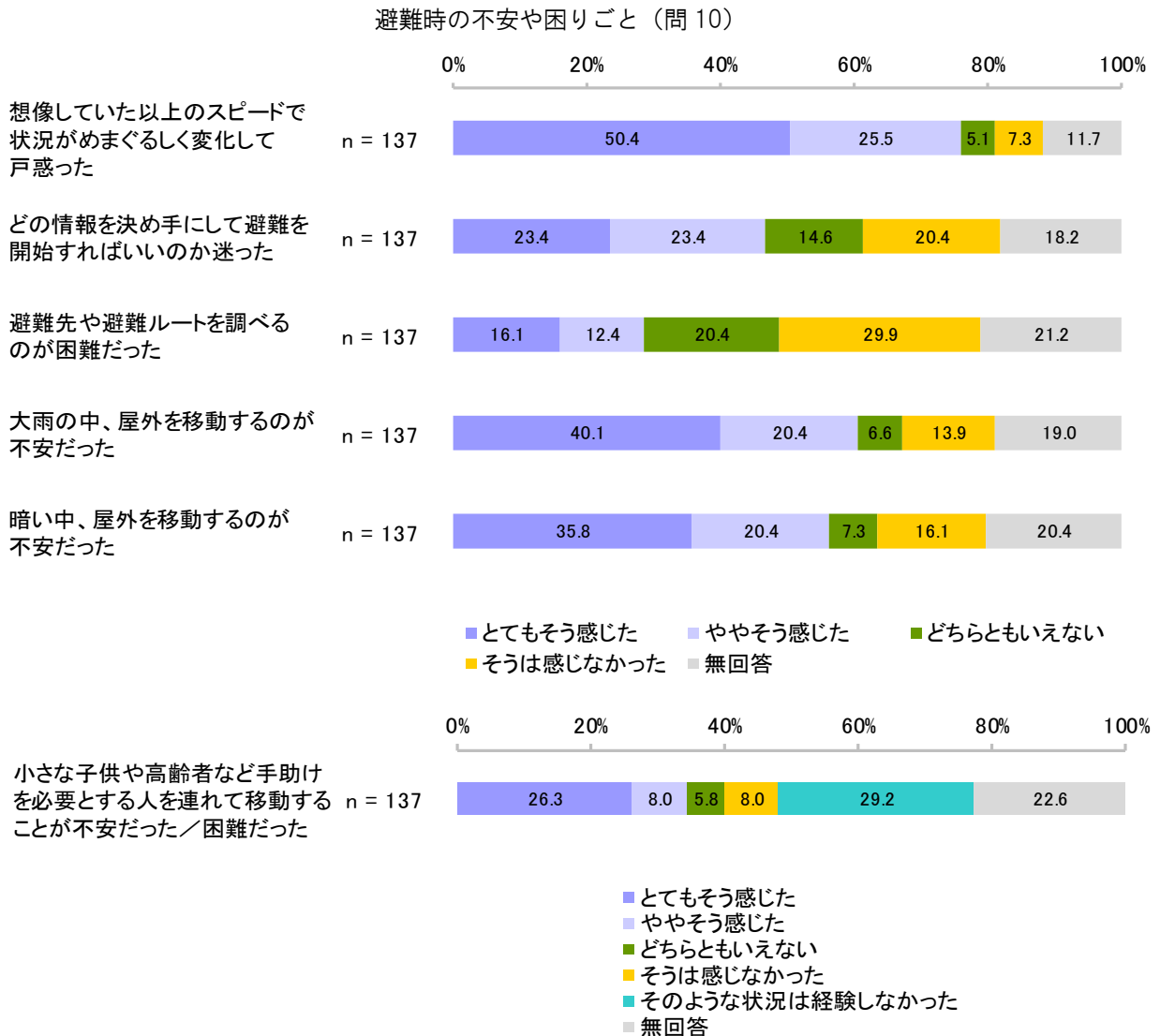
問7で「避難行動をとった」と回答した137人の、避難行動をとることを判断した決め手(問9、複数回答)をみると、「雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから」(62.8%)、「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから」(44.5%)といった、「雨」や「水」の状況が決め手となったとして挙げている人が多い。また、「自分のいる地域は大雨により被害が発生するおそれがあると思ったから」(45.3%)、「天気予報を見て、危険と判断したから」(44.5%)、「大雨警報や土砂災害警戒情報などの気象庁が発表する防災気象情報を見て、危険と判断したから」(40.9%)といったように、大雨になる前から把握していた情報や、防災気象情報が決め手となり避難したとして挙げている人も多い。

ただし、避難行動をとる判断の決め手に最も影響があったもの(問9、単数回答)をみると、「雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから」(28.5%)、「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから」(25.5%)が上位1・2位であり、「避難行動をとった」人のうち、「雨」や「水」の状況が避難の判断に最も影響したと回答した人は、過半数を占めている。また、「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから」は「避難行動をとった」と回答した人の4人に1人の割合であり、何らかの被害に直面してから避難することを決断した人も多かったと考えられる。

一方、避難行動をとらなかった理由をみると、判断した理由(問11、複数回答)、最も判断に影響があったもの(問11、単数回答)は、ともに「自分のいる地域に大雨警報や土砂災害警戒情報などの防災気象情報や避難指示が発表・発令されていることを知ってはいたが、被害にあうとは思わなかったから」(51.9%、23.3%)、「自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生しなかったから」(40.9%、15.4%)が上位1・2位となっている。防災気象情報や、自治体からの避難情報が発表・発令されていることを認識していても、「自分は大丈夫」、「避難は被害の恐れが直面してからでも間に合う」といった意識から、避難行動をとらなかった人が多かったことがうかがえる。

4. 避難時の不安や困りごと

問7で「避難行動をとった」と回答した137人に、避難時の不安や困りごと（問10）を聴取している。



「とてもそう感じた」と「ややそう感じた」を合わせた『そう感じた』と回答した人が過半数に達した項目は以下のとおりである。

＜想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑った＞（『そう感じた』：75.9%）

＜大雨の中、屋外を移動するのが不安だった＞（『そう感じた』：60.5%）

＜暗い中、屋外を移動するのが不安だった＞（『そう感じた』：56.2%）

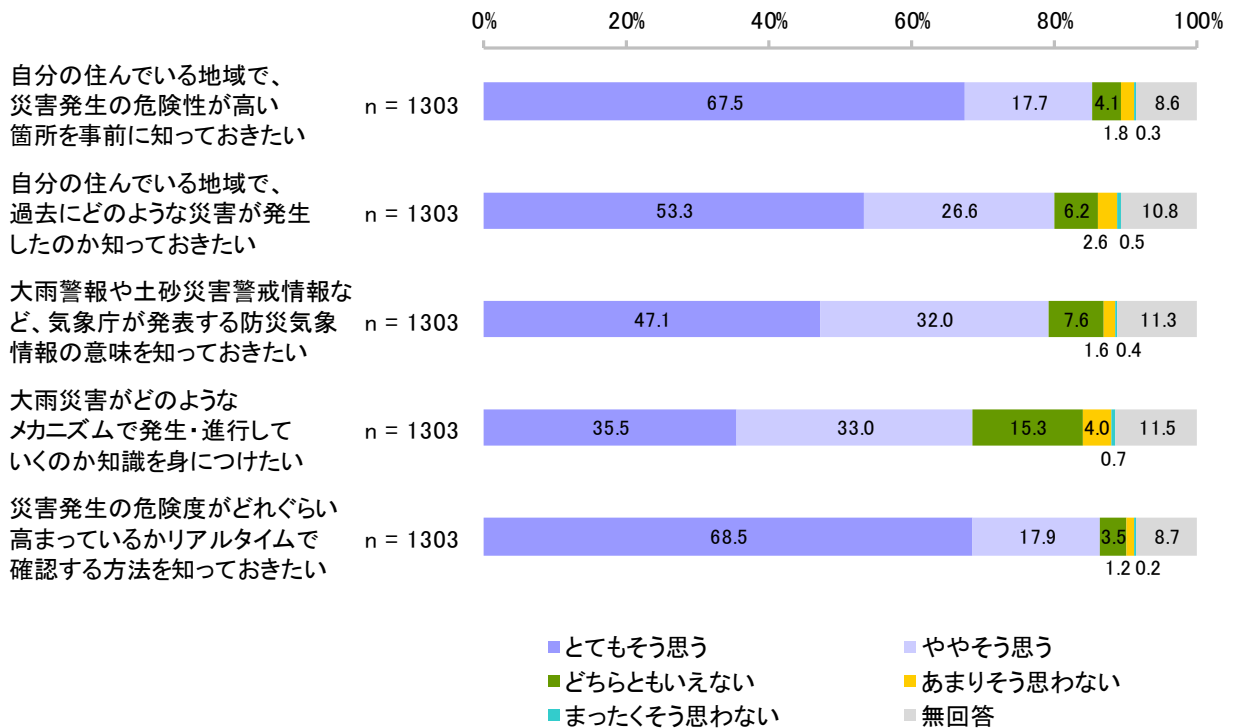
今回の台風第15号は、夜中から朝にかけて記録的な大雨となった災害である。大雨災害に対する課題、気象庁への要望や期待（問16. 自由回答）をみると、「深夜だと寝ていて大雨に気づかない」、「夜中に水位が上昇し、気がつかない人が大勢」といった意見がみられる。このことから、「想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑った」については、当時避難行動をとらなかった人も含め、具体的には一晩の間に「雨」や「水」の状況が急激に悪化したことに戸惑ったものと考えられる。

なお、問7で「避難行動をとった」と回答した137人のうち、「2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に避難した」は104人で、75.9%を占めている。本アンケートでは避難行動をとった時間帯は聴取していないが、「大雨の中、屋外を移動するのが不安だった」かどうか、「暗い中、屋外を移動するのが不安だった」かどうか聴取したところ、「とても感じた」と「ややそう感じた」を合わせた『そう感じた』（60.5%、56.2%）と回答した人の割合は、それぞれ過半数に達しており、“立退き避難”するには雨の状況や時間帯から危険な状況になっており、状況に応じて“屋内安全確保”を選択したケースも多々あったものと考えられる。

5. 大雨災害から命や財産を守るために今後身につけたい知識

大雨災害から命や財産を守るために身につけたい知識（問14）については、いずれの項目についても「とても思う」と「やや思う」を合わせた『そう思う』の割合は高かった。

大雨災害から命や財産を守るために身につけたい知識（問14）



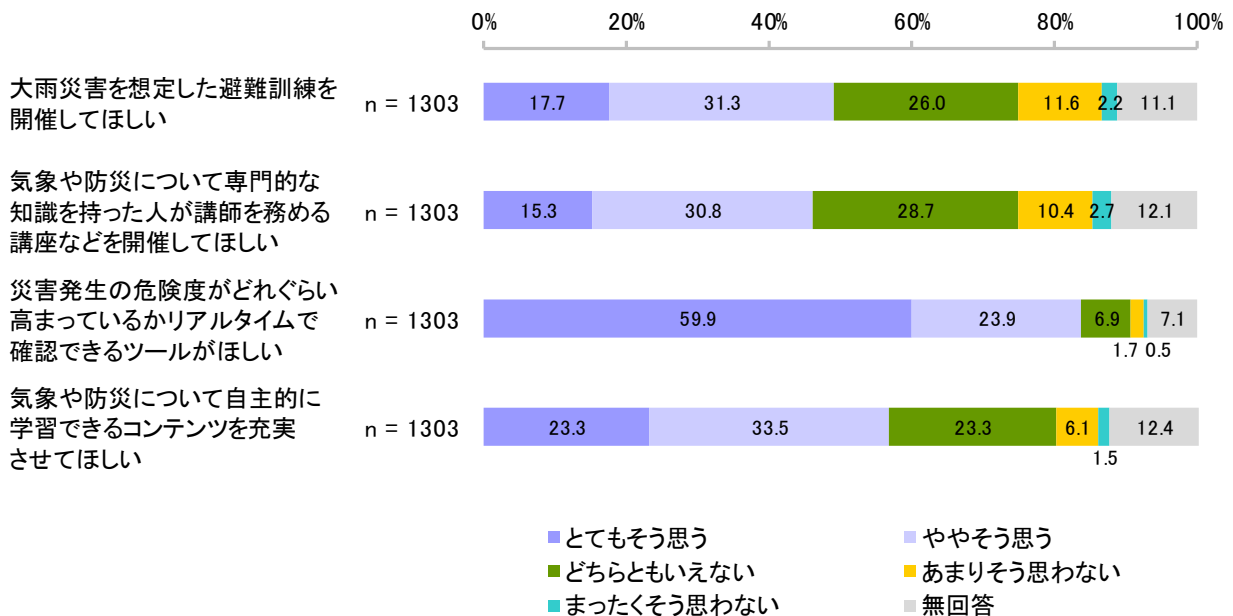
ただし、「とても思う」の割合をみると、以下のように、災害発生の「危険性」「危険度」の確認について、特にニーズが強いことがわかる。

- <自分の住んでいる地域で、災害発生の危険性が高い箇所を事前に知っておきたい>
(「とても思う」：67.5%)
- <自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が発生したのか知っておきたい>
(「とても思う」：53.3%)
- <災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認する方法を知っておきたい>
(「とても思う」：68.5%)

6. 今後の大雨災害に備え、気象庁や自治体に期待する取り組み

大雨災害への備えとして気象庁や自治体に期待する取り組み（問 15）について、最もニーズが高かったのは、「災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認できるツールがほしい」という項目であり、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は 83.8%を占める。また、「とてもそう思う」についても 59.9%と高く、他の項目と比べて突出している。

大雨災害への備えとして気象庁や自治体に期待する取り組み（問 15）



大雨災害に対する課題、気象庁への要望や期待（問 16. 自由回答）をみても、状況把握のために「ライブカメラ」「映像ツール」のような視覚的に危険度を把握できるようなツールへの要望があり、“リアルタイム”、“ライブ”、“タイムリー”といったキーワードが散見される。

また、情報の入手経路について課題を提起する意見もみられた。主なものを挙げると、

- ・「リアルタイムで情報を得る方法が限られていた。SNS等で周辺の情報を得ていたものの、一部ではデマ等の信憑性に欠ける情報もあったため、公的機関からの正しい情報を確認する方法が欲しい」
- ・「スマホでの情報をつかめる世代はいいが、お年寄りなどはテレビ、ラジオを活用するなど呼びかけ方法を検討してほしい」
- ・「深夜だとテレビもつけていないので、情報に気づかない」
- ・「大雨や台風では公報（無線）で何を言っているのか聞こえない」

などである。気象庁や自治体に対し、災害発生の危険度をリアルタイムで確認できるツールと併せて、災害時の情報の伝達手段の充実についても高い期待が寄せられている。

自由回答

令和4年台風第15号の経験等から感じた課題や、気象庁への要望等について、自由回答形式によりご意見を伺った。いただいたご意見の中から、気象庁が展開している地域防災支援の施策に関連する代表的なものを抜粋し、下記のとおり掲載する。

なお、基本的には記入いただいた原文のまま掲載しているが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、内容を一部省略して掲載している。

平時の取組に関すること

【防災知識の普及啓発について】

- 事務所に被害はなかったのですが、本当に少し離れた（50m程）のお家は浸水に遭っていました。ハザードマップを後で見ると、ハザードマップの通りで驚きました。ハザードマップをもっと回覧板や学校、医療施設、郵便局などに掲示するようにして、皆が無意識に防災意識を高める環境になればとよいかと思えます。（30代）
- 大雨による被災地は、過去のデータにより特定が可能（低地など）であるので、自治体や町内会などの広報のやり方も工夫を要する事により、周知徹底できれば被災を減少する可能性が生じると思われる。（80代以上）
- 住まい地域に限らず、全国どこにいても気にすることが“冠水のおそれがあるエリア”です。自身も承知しているよく冠水するエリアで、冠水を促す看板を目にするところがあり、「この看板、いいなー（参考になる）」と感じています。気象庁の範囲の仕事ではないかもしれませんが、過去の冠水や災害を“見える（可視化）”する事が、普段の生活になじむ事で人の意識や興味つながり、色々な場合での被害低減ものぞめるのではないかと考えます。『ハザードマップを、日常生活へ浸透させる』の実現をお願いしたいです。（40代）

【防災教育について】

- 静岡市の小学生は、社会科見学で「静岡市治水交流資料館（かわなび）」に行きます。昨年私も見学する機会があり、とても勉強になりました。その後台風15号を経験しました。災害について知っておくには最適な施設だと思うので、大人も利用する機会が増えるよう、気象庁、県、市も周知広報してほしいです。七夕豪雨の経験談は年輩の方から良く聞きます。まさかとは思いますが、最悪の事態を想定できるよう、恐ろしさを伝えることは大切だと思います。（40代）
- ハザードマップについて小学校の授業で教えるべき。災害が起きそうな大雨の予報の精度を、今より高めていただきたい。（40代）
- 自分含め、皆の危機への意識が低い気がする。特別なことではなくて日常という意識を持てるように、小さい頃から教育した方が良いような気がする。例えば、学校の授業で国数英みたいな感覚で。特別授業ではなく、普通に授業で。（30代）

【防災訓練について】

- 自治会で行う防災訓練は地震を想定したものが多く、水害も含め色々な災害を想定したものにしていく必要を感じる。特に当地区では、断水が長期にわたったので、今後その様な状況に対応していく必要を感じた。（70代）

災害時の対応に関すること

【想定と上回る事態となったことについて】

- 23日に寝る前は雨が強く降っていたが、まさか床上までは浸水しないと勝手に思い込み、寝てしまった。車が浸水し、ブザーが激しく鳴ったので気がついた。気がついた時にはすでに水が玄関までできていて、あっという間に床上浸水してしまった。だいたい9時頃には寝てしまうので、テレビのニュースもチェックできなかった。自分自身がもう少し危機管理意識を高めて行動しないといけないと思った。自分だけは大丈夫、という考えがいけなかった。（60代）
- 静岡市清水地区の降水量が夜中から朝にかけて一番多く、寝ていた為に外の状況に全く気がつかず、朝起きたら大変な事になっていた。近所は、2時ごろ道路に水がたまり浸水してきたが、何もする事が出来なかった（近所の人に連絡するにも夜だったので…）。事前にある程度の予知が出来れば、被害をもっと抑えられたと思う（車両など特に）。以前に河川工事が行われたが、一定量川へ流れると水が流れず、以前より川へ流れ出る量が減ったのではという声もあるのですが、どうなんでしょうか？異常気象は止める事が出来ないの、早い情報提供と災害後の素早い行政対応に、今後期待しております。（50代）
- 避難しなければいけない状況を、実際に被害が出るまで分からなかったこと。大雨で床上まで水がく

るとは思ってもいなく、普段携帯に届く避難警告と同じような感覚でいた。危機感が分からないことが課題です。この災害を皆が忘れないようにと、災害のことを知らない人も、大雨でこんな被害が出てしまうことを理解して頂くために、情報を発信し続けていただきたいです。あと、災害が起きてからもうすぐ1年なので、このアンケートを配布することが遅い対応だと思いました。(10～20代)

- 深夜だと、家の強度も増してきて、寝ていて大雨に気づかない。テレビもつけていないので、情報に気づかない。外の放送も、大雨だと音が消されて気づかない。どうしたらいいのか。(40代)
- 今回は夜中だった事もあり、危険を音で判断してしまったのが間違いでした。12時には起きてTVをつけてみました。警報が出ている割に外の音が小さかったので、そこで眠ってしまいました。もしかしたら、そこで外に出て、目の前の川や道路の状況を見ていたら、車を移動出来たかも知れませんが。自宅近くは静かでも、目の前が川なので、警報が出ている場合は危険なので、車は移動する様になりました。遠くで(川の上流の方で)降った雨が流れて来て、橋げたが詰まり、あふれた様です。そこまで想定できなかったのも、悔まれます。特に川のそばだという事も頭に入れておかなければなりません。周りが動かないと、皆さん動かない様子でした(避難について)。(50代)
- 問7で「避難行動をとらなかった」のは、深夜で、大雨が降っていることは知っていても、外の状況は全くわからなかったためです。朝起きて、自宅の駐車場、倉庫が水没した形跡があり、マンホールの蓋が流され、側溝の蓋が隆起し、近くの川沿いの道路が流されていました。深夜の大雨の対応をどうすればいいのか、一緒に考えて欲しいです。(50代)

【避難行動をとるべきタイミングについて】

- 予報が外れたり、予想よりも上回る事があると思うから、その時そのタイミングで、リアルタイムや前もって状況がわかったり、自分たちで動ける判断材料があれば…と思う。小さい子供や高齢者が、避難しやすい・避難した後、ある程度不自由なく生活したり過ごせる場所があれば良き(ミルクやオムツ、ベビーフード、紙オムツ、ナプキン…等)。実際、線状降水帯等、大雨でどこかに避難やその場を動くのをためらう人は、少なからず理由があつて居るはず(大事にはならないだろう…等)なので、避難する程でもないだろうという考えや、気持ちがある人もいると思うから、そういう人達は経験しないと危機感を持たないと思う(自分たちもまさか…とっていたので)。(10～20代)
- 家の近所が浸水し始めると、現実的に避難が難しくなります。特に家に対して道路が低くなっているケースが多く、水量が多い方向に向かわなければならないこと。浸水により足元が見えにくくなり、深みにはまるリスクがあること。避難の必要性は理解しているものの、水害に強い街づくり、あるいは避難導線の確保が必要と思います。(40代)
- 一度、大雨が降って道路(家の前)が冠水しました。その後、雨が止んで水も引いたため安心しました。その後また大雨になり、1時間ほどで巴川が氾濫してしまったため、床上浸水となった。遠くで大雨が降ると(静岡で)、巴川の水位が一気に上がる。河川情報(雨に伴う)も知りたい。(50代)

【要配慮者等の避難行動について】

- 足が不自由で移動困難な身でも、安全に避難できる方法を考えてほしい。避難場所が明確にわからない。早めの避難と言われても、早く行動をとって、実際空いているのか。犬は、公民館に入れてくれるのか?具体的に知りたい。(80代以上)
- 老人の一人住いで、避難をためらいます。万一の場合は、自治会等からしっかり避難を呼びかけてほしいと思います。(80代以上)
- 自分が単身者、仕事の関係で引っ越してきた為、地域とのつながりがないと避難のハードルが高いなと感じました。(30代)
- 高齢(87才)の母と暮らしておりますが、連れての避難はできません。地域の方々の協力を得られるような方法をとって頂きたいです。各町内で各戸の家庭状況を把握して頂き、すぐ対応できるようになれば安心です。(60代)

【自家用車の高台避難について】

- 住んでいる地域の方が大雨によりどの様な被害を受けるのか把握しておらず、道路の水位が上がってきて、自分はすぐに車・バイクを安全と思われる高台に移動した。しかし、近くのアパートの人達はそのまま駐車場に止めたままでおり、最終的には全て(20台近く)が水没してしまった。今後の為に、過去の被害状況を誰でも確認できる情報を出し、事前に行動できる様な仕組みをお願いしたい。(50代)
- 車への水の浸入が多く、被害が大きくなりました。高台にある近くの中学校が、大雨の時には車を移動させてもらえるようになったので、全国の学校にも協力して頂けるようになれば良いと思います。(50代)

【防災情報の収集方法について】

- 台風15号の時、雨の音で防災スピーカーの内容が全く聞き取れなかったです。スマホ、パソコンを使えない人がいたらとても不安になったと思います。何かよい手段があればいいのですが、お願い致します。(60代)

- スマホでの情報をつかめる世代はいいが、お年寄りなどはテレビ、ラジオを活用するなど呼びかけ方法を検討してほしい。情報が無い人が被害を受けると思う。河川の氾濫箇所情報を見やすくしてほしい。(40代)

【情報の正確性について】

- この調査票の届いたところは巴川が非常に近く、ここ数年で何度も浸水の危険性を感じるがありました。15号の際には近くの方は浸水しました。その危険度合を、NHKのニュース防災アプリ内の河川情報で川の水位を確認して判断しています。しかし、その水位情報も欠測があったりと、ちょっと頼りない感があります。そのような情報がしっかり確認できるものがあると助かります。(50代)
- 災害状況等、情報の発信が課題かと思えます。インターネット等により、誤情報が流布されやすくなっています。災害時、正確且つ適等な頻度の情報を一元化していただきたいと思えます。(50代)

回答者本人の振り返り

- 令和4年の台風15号より以前に、前のマンションに住んでいた時に、人生で初めて雨による災害の怖さを知りました。前は地盤の低い地域に住んでいたため、車が水没してしまいました。その経験のおかげで、災害発生の危険性を調べるようになり、今は地盤の高いとされている地域に引っ越して、令和4年台風15号の被害は運良くまぬがれましたが、自然の事なので、“絶対に安心”というのはどこに住んでいても無いと思うので、気象や防災について自分なりに学習できるコンテンツ等、何かしらあったらとても助かります。間違った情報におどらされる事なく、正しい知識を身につけて行きたいと、改めて思います。(40代)

その他

- もっと予測精度を上げてほしい。(60代)
- 大雨情報と海の干潮と満潮時間を合わせて、情報発信をお願いいたします。私は静岡市清水区の巴川の堤防から、4m幅の道路わきに自宅があります。1階は物置と車庫になっていて、玄関は道路から2m位高くなっています。2階からは巴川の水量が良く見えます。数年に1回位、道路から50CM位の高さまで浸水し、物置兼、車庫も浸水します。川の水位が道路付近まで高くなると、自動車を近くの2階駐車場に避難します。昨年の台風15号では道路から110CM位水が上がり、堤防のも越水しました。今まで最高の水位でした。道路まで浸水するのは決まって夜中で、豪雨で清水港が満潮時に近くなった時です。干潮時に豪雨になっても、道路まで巴川の水位は高くなりません。夜は気温が下がり、湿度が上がると、豪雨になりやすいかもしれません。巴川は高低差が数メートルの為、海の潮位に影響されます。従って、大雨情報と海の干潮と満潮時間を合わせて、情報発信は重要だと考えられます。(60代)
- 15号時に、大雨災害でもライフラインが止まってしまうことを痛感した。大雨の予報が出たら、水や食料等備蓄しておくことが大切。気象庁に対して要望はないが、地域での助け合い、声のかけ合い等、地方自治体への課題の方が多いと思う。15号の被害を体験し、大雨災害への防災意識は高まったと思う。(40代)
- 大雨の時、巴川がもっと耐えられるように、早急に工事、整備を行って欲しい。(30代)

令和4年台風第15号を踏まえた気象庁の防災業務に関する調査 調 査 票

令和4年9月23日（金）夜から同24日（土）朝にかけて、静岡市では、令和4年台風第15号の接近に伴い記録的な大雨となり、各地で浸水や土砂による被害が発生しました。

気象庁といたしましては、過去の災害をしっかりと振り返って教訓を学び取り、防災に関する取り組みの更なる改善につなげるため、令和4年台風第15号を経験された地域にお住まいの皆様を対象に、アンケート調査を実施することといたしました。

つきましては、当時の状況やご自身の行動、また大雨災害への備えなどについて、次ページから始まる質問にご回答いただきますようお願い申し上げます。

なお、本アンケートの趣旨や、ご回答いただいた内容の取扱いについては、同封している別紙に記載しておりますので、ご一読いただければ幸いです。

ご回答いただく際の留意事項、回答後の調査票の返送方法などについては、以下のとおりとなりますので、「ご回答いただく際のお願い」をご一読の上、ご回答いただきますようお願いいたします。

◆ ご回答いただく際のお願い ◆

- アンケートの回答の所要時間は約15分です。
- 現在、同居者がいらっしゃる場合は、代表者お一人（高校生以上の方）がご回答ください。
- 回答には（○は1つ）、（○はいくつでも）等の表示に従って、あてはまる番号を選び、数字に○をつけてください。「その他」を選ばれた場合は（ ）内にその内容を具体的にお書きください。
- 回答を書き込んでいただいた調査票（この冊子）は、折りたたんで同封している返信用封筒に入れ、**令和5年8月31日（木）**までに郵便ポストに投函いただきますようお願いいたします。なお、**返信用封筒に切手は不要**です。
- この調査に関するお問合せは、以下の**気象庁の担当者まで**お願いします。（静岡市役所や静岡県庁へのお問合せ等はお控えください。）

【お問合せ先】

気象庁 総務部 企画課 地域防災企画室 アンケート担当
〒105-8431 東京都港区虎ノ門3-6-9
電話：03-6758-3900（内線2211、2213）

はじめに、回答内容を統計的に分析するために、あなたの基礎的な情報について教えてください。

【全ての方にお聞きします】

問1. 令和5年8月1日現在、あなたはおいくつ（満年齢）ですか。年齢を算用数字でお書きください。

	歳
--	---

【全ての方にお聞きします】

問2. 令和5年8月1日現在、このアンケートが届いた場所（自宅や事務所）でどれぐらいの期間生活していますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

1. 1年未満	2. 1年以上10年未満
3. 10年以上20年未満	4. 20年以上

【全ての方にお聞きします】

問3. あなたご自身またはあなたの同居する家族に、自ら避難することが困難な方や避難に時間がかかる方（高齢者、障害をお持ちの方、乳幼児、妊産婦など）はいらっしゃいますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

1. いる	2. いない
-------	--------

次に、台風第15号により静岡市で大雨となった当時（令和4年9月23日（金）～24日（土））のあなたの状況と行動について教えてください。

【全ての方にお聞きします】

問4. 台風第15号により静岡市で大雨となった令和4年9月23日（金）～24日（土）当時、どこで過ごしていましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。（○は1つ）

1. このアンケートが届いた場所で過ごしていた	⇒ 問5へ
2. このアンケートが届いた場所ではないが、静岡市内で過ごしていた	⇒ 問5へ
3. 静岡市 <u>以外</u> で過ごしていた	⇒ 問12へ

【問7で「1」を選んだ方にお聞きします】

問8. どのような避難行動をとりましたか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選び、数字に○をつけてください。(○は1つ)

なお、段階的にいくつかの避難行動をとった人は、最終的にとった行動を選択してください。

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 1. | 2階以上や山の斜面から離れた部屋など、自宅や事務所内の安全な場所に避難した |
| 2. | 静岡市が指定する近くの避難場所（公民館、学校など）に避難した |
| 3. | 親戚や知人の家などに避難した |
| 4. | ホテルや旅館などに避難した |
| 5. | 近隣の安全な場所（近隣のマンションの上層階など）に避難した |
| 6. | その他（ <input type="text"/> ） |

【問7で「1」を選んだ方にお聞きします】

問9. 避難行動をとることを判断した決め手は何でしたか。

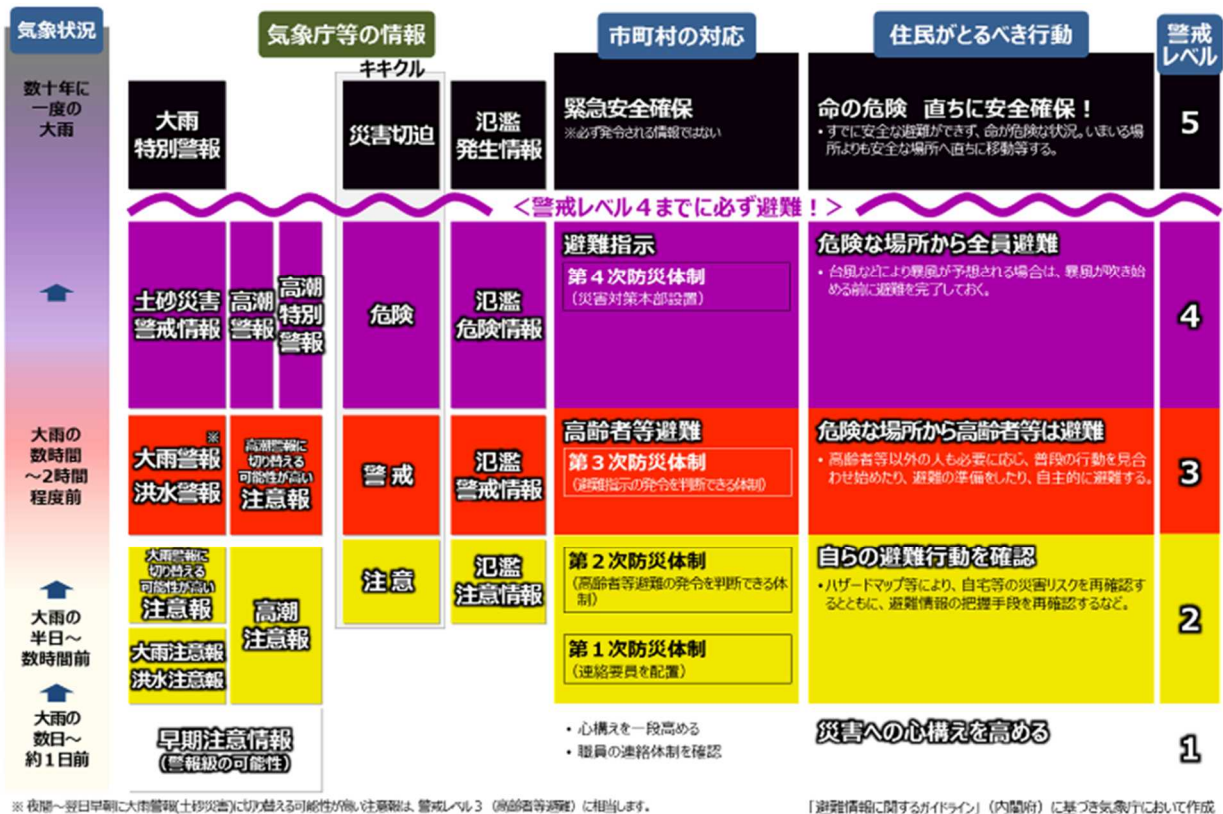
① 決め手となったもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)

② ①で選んだ中から、最も判断に影響があったと思うものに1つだけ○をつけてください。(○は1つ)

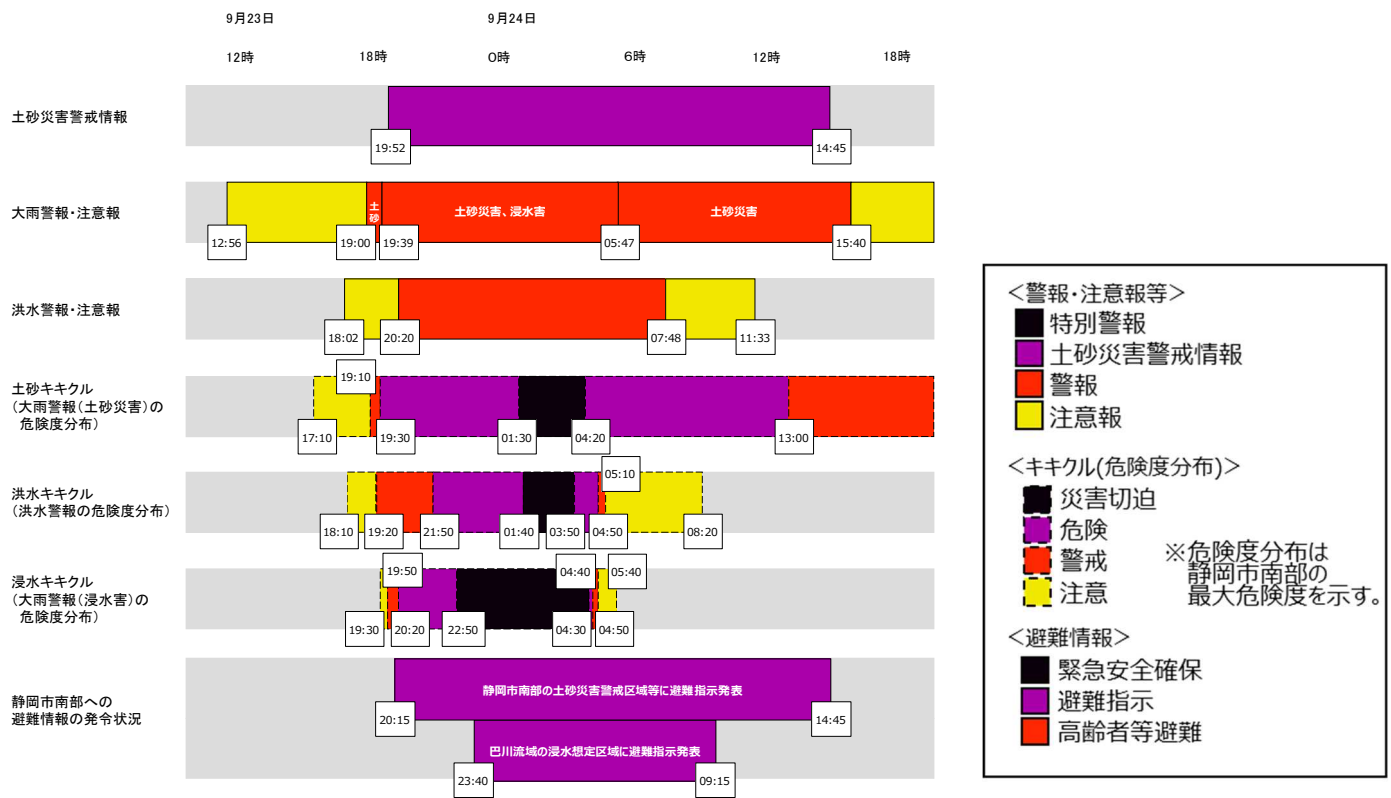
次ページに気象庁が発表する防災気象情報を警戒レベルごとに整理したリストと、気象警報や避難指示の当時の発表状況を時系列で整理したチャートを掲載していますので、回答の参考にしてください。

	① 決め手となったもの (○はいくつでも)	② 最も判断に影響したもの (○は1つ)
a. 天気予報を見て、危険と判断したから	1	1
b. 大雨警報や土砂災害警戒情報などの気象庁が発表する防災気象情報を見て、危険と判断したから	2	2
c. 自分のいる地域は大雨により被害が発生するおそれがあると思ったから	3	3
d. 自分のいる地域に避難指示が発令されたから	4	4
e. 家族や知人、近所の人から避難を呼びかけられたから	5	5
f. 近所の人も避難していたから	6	6
g. 雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、危険と判断したから	7	7
h. 自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生したから	8	8
i. 自分のいる場所で断水や停電が発生し、生活に不便が生じたから	9	9
j. その他（ <input type="text"/> ）	10	10

参考 段階的に発表される防災気象情報と対応する行動



参考 静岡市南部を対象とした気象警報や避難指示の発表状況(令和4年9月23日～24日)



【問7で「1」を選んだ方にお聞きします】

問10. 避難する際に、次のような不安や困りごとに直面しましたか。次の各項目について、**最も近いもの**を選び、○をつけてください。(○は1つ)

	とてもそう感じた	ややそう感じた	どちらともいえない	そうは感じなかった	そのような状況は経験しなかった
a. 想像していた以上のスピードで状況がめまぐるしく変化して戸惑った	1	2	3	4	
b. どの情報を決め手にして避難を開始すればいいのか迷った	1	2	3	4	
c. 避難先や避難ルートを調べるのが困難だった	1	2	3	4	
d. 大雨の中、屋外を移動するのが不安だった	1	2	3	4	
e. 暗い中、屋外を移動するのが不安だった	1	2	3	4	
f. 小さな子供や高齢者など手助けを必要とする人を連れて移動することが不安だった／困難だった	1	2	3	4	5

【問7で「1. 避難行動をとった」を選択した方は問12へ】

【問7で「2」を選んだ方にお聞きします】

問11. 避難行動をとらなかった理由は何でしたか。

- ① 判断した理由としてあてはまるもの全てに○をつけてください。(○はいくつでも)
 ② ①で選んだ中から、最も判断に影響があったと思うものに1つだけ○をつけてください。(○は1つ)

	① 判断した理由 (○はいくつでも)	② 最も判断に影響したもの (○は1つ)
a. 天気予報を見て、安全と判断したから	1	1
b. 自分のいる地域に大雨警報 ¹ や土砂災害警戒情報 ² などの防災気象情報や避難指示が発表・発令されていることを知らなかったから	2	2
c. 自分のいる地域に大雨警報や土砂災害警戒情報などの防災気象情報や避難指示が発表・発令されていることを知ってはいたが、被害にあうとは思わなかったから	3	3
d. 近所の人も避難していなかったから	4	4
e. 雨や風の強まり、近所の川の水位などを見て、安全と判断したから	5	5
f. 自分のいる場所に水や土砂が流れ込んでくるといった被害が発生しなかったから	6	6
g. どこに避難すれば良いのかわからなかったから	7	7
h. 避難のために、大雨の中を移動する方がかえって危険だと感じたから	8	8
i. 避難のために、暗い中を移動する方がかえって危険だと感じたから	9	9
j. 避難しようとしたときには、浸水などにより移動できなくなっていたから	10	10
k. 家族や同居人を連れて避難することが困難だったから	11	11
l. その他 ()	12	12

台風第15号のような大雨災害から命を守るためには、適切に避難の判断ができるよう、防災に関

¹ 大雨警報：大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表。特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨警報（土砂災害）」、「大雨警報（浸水害）」又は「大雨警報（土砂災害、浸水害）」のように発表する。雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが残っている場合には発表を継続する。

(引用元：気象庁ホームページ。 https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/warning_kind.html)

² 土砂災害警戒情報：大雨警報（土砂災害）の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、静岡県内であれば、静岡県庁と静岡地方气象台（静岡県を管轄する気象庁の地方支分部局）が共同で発表している。危険な場所からの避難が必要な警戒レベル4に相当する。

(引用元：気象庁ホームページ。 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/doshakeikai.html>)

する正しい知識を身につけ、地域の災害リスクについて理解しておくことが重要です。
そこで、あなたの大雨災害に対する備えや認識について教えてください。

【全ての方にお聞きします】

問 12. 台風第15号より前に、大雨災害で被災された経験はありますか。今お住まいの地域以外でのご経験も含め、お答えください。次のうち、あてはまるものを全て選び、数字に○をつけてください。(○はいくつでも)

- | | |
|----|---------------------------|
| 1. | 自宅や事務所など人のいる場所が床下浸水した |
| 2. | 自宅や事務所など人のいる場所が床上浸水した |
| 3. | 自宅や事務所など人のいる場所に土砂が流れ込んできた |
| 4. | 車や倉庫、畑などの資産が浸水した |
| 5. | 車や倉庫、畑などの資産が土砂に巻き込まれた |
| 6. | 断水や停電などにより生活に影響があった |
| 7. | その他 () |
| 8. | 特に被害にはあっていない |

【全ての方にお聞きします】

問 13. 大雨災害への備えとして、以下の取り組みをこれまでに経験したことがありますか。次の各項目についてあてはまる方を選び、○をつけてください。(○は1つ)

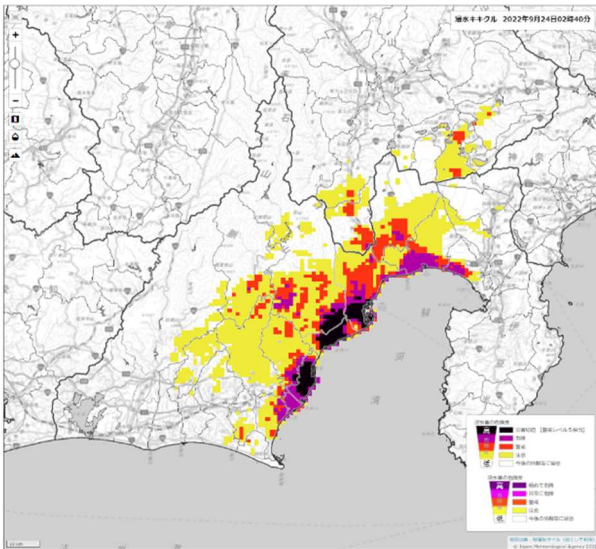
	経験した ことがある	経験した ことがない
a. 大雨災害に備えた地域の防災訓練に参加したこと	1	2
b. 大雨災害に関する防災講座に参加したこと	1	2
c. 気象庁ホームページで防災気象情報 ³ を確認したこと	1	2
d. 現在お住まいの地域の洪水に関するハザードマップを確認したこと	1	2
e. マイ・タイムラインを作成したこと	1	2
f. 大雨災害時の避難場所や避難ルートについて確認したこと	1	2

参考 気象庁ホームページに掲載している防災に関する情報の一例

³ 気象庁が発表する気象警報・注意報やキキクル（危険度分布）などの防災気象情報は、気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuflash.html>) で確認できます。

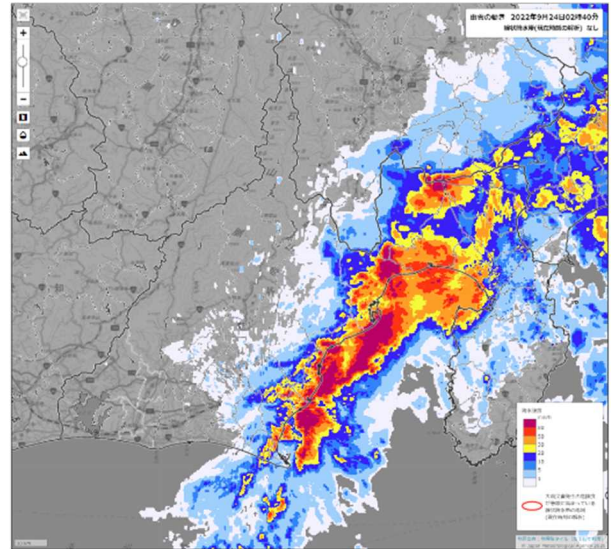
(図はいずれも 2022 年 9 月 24 日 2 時 40 分時点のスクリーンショット)

浸水キキクル（危険度分布）



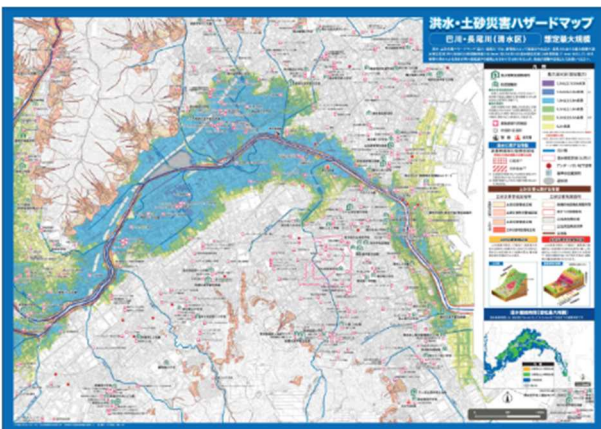
画像引用元：気象庁ホームページ

雨雲の動き



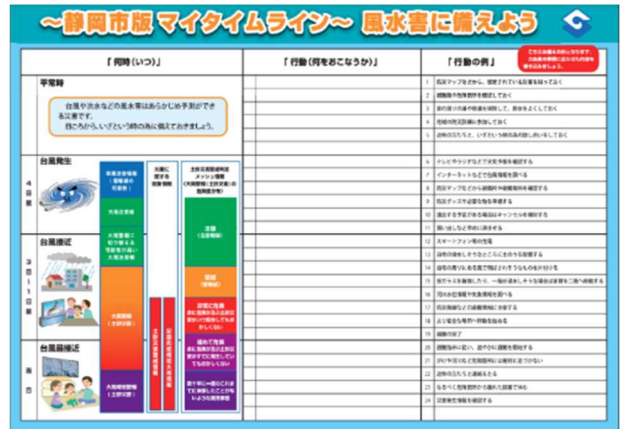
画像引用元：気象庁ホームページ

参考 洪水・土砂災害ハザードマップ⁴



出典：静岡市ホームページ「洪水ハザードマップ：静岡市」
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000808103.pdf>

参考 静岡市版 マイ・タイムライン⁵



出典：静岡市ホームページ「マイ・タイムライン：静岡市」
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000837082.pdf>

⁴ ハザードマップ：自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

(引用元：国土交通省国土地理院ホームページ。 <https://www.gsi.go.jp/hokkaido/bousai-hazard-hazard.htm>)

⁵ マイ・タイムライン：住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。(引用元：国土交通省ホームページ。

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/main/saigai/tisiki/syozaiti/mytimeline/index.html>)

【全ての方にお聞きします】

問 14. 大雨災害から命や財産を守るために、今後、どういった知識を身につけたいと思いますか。
次の各項目について、**最も近いもの**を選び、○をつけてください。(○は1つ)

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
a. 自分の住んでいる地域で、災害発生の危険性が高い箇所を事前に知っておきたい	1	2	3	4	5
b. 自分の住んでいる地域で、過去にどのような災害が発生したのか知っておきたい	1	2	3	4	5
c. 大雨警報や土砂災害警戒情報など、気象庁が発表する防災気象情報の意味を知っておきたい	1	2	3	4	5
d. 大雨災害がどのようなメカニズムで発生・進行していくのか知識を身につけたい	1	2	3	4	5
e. 災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認する方法を知っておきたい	1	2	3	4	5

【全ての方にお聞きします】

問 15. 今後、再び台風第 15 号のような大雨災害が発生することに備え、気象庁や地元の自治体にどのような取り組みを進めることを期待しますか。

次の各項目について、**最も近いもの**を選び、○をつけてください。(○は1つ)

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
a. 大雨災害を想定した避難訓練を開催してほしい	1	2	3	4	5
b. 気象や防災について専門的な知識を持った人が講師を務める講座などを開催してほしい	1	2	3	4	5
c. 災害発生の危険度がどれくらい高まっているかリアルタイムで確認できるツールがほしい	1	2	3	4	5
d. 気象や防災について自主的に学習できるコンテンツを充実させてほしい	1	2	3	4	5

【全ての方にお聞きします】

問 16. そのほか、台風第 15 号や今後経験するかもしれない大雨災害について、あなたが課題だと感じる事、気象庁に対する要望や期待などがあれば、ぜひお聞かせください。(任意回答)

自由記載欄

質問は以上となります。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。